

令和5年度指定

# スーパーサイエンスハイスクール 研究開発実施報告書

<第3年次>



令和8年3月

長崎県立大村高等学校

## 巻頭言

### 探究活動の主軸としてSSH事業に取り組む

校長 満行 洋介

本校は平成30年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、第Ⅰ期では「教科横断型課題探究プログラムと評価・指導法（大村SCANプログラム）の研究開発」をテーマに研究開発に取り組みました。そして、令和5年度からは第Ⅱ期の指定を受け、「教科横断型課題探究プログラムと評価・指導法のSHINKAによる科学技術人材育成方法の開発」をテーマに掲げ、新たな研究開発に取り組み、今年度9月上旬に中間評価ヒアリングを終えたところです。

学校全体でSSHの研究開発に取り組むとの姿勢を基本としながら「社会課題を科学的な切り口で多角的に分析するカリキュラムの開発」「地域の各機関と連携した科学的探究力・協働実践力育成課題探究プログラムの開発」「県外SSH指定校、海外の高校等多様な相手との交流共同研究システムの開発」そして「生徒のメタ認知力と教員の指導力双方を向上させる『真正の評価』の開発」を目標に取り組みを進めているところです。それぞれの具体的な取組の内容につきましては是非、本報告書をお読みいただきたいと思います。

また、取組の成果として、「積極的に外部機関と繋がろうとする生徒が増えたこと」「外部コンテスト・発表会に積極的に参加する生徒が増えたこと」「理科部の部員数が増加したこと」「選抜性の高い理系大学へ進学する生徒が出てきたこと」「教職員の指導力の変容が見られたこと」などを挙げるすることができます。今後とも、生徒たちの積極的なチャレンジに期待するとともに、学校をあげて探究活動の充実・深化に向け、努力してまいりたいと思います。

最後になりましたが、本校のSSH事業推進に御指導・御助言をいただきました文部科学省、科学技術振興機構、長崎県教育委員会並びに運営指導委員の皆様、大学・研究所・事業所・地域行政の皆様、そして本校教育を支えていただいています多くの方々に、改めて感謝とお礼を申し上げ、発刊のあいさつといたします。

長崎県立大村高等学校	基礎枠
指定第Ⅱ期目	05～09

①令和7年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）

① 研究開発課題		教科横断型課題探究プログラムと評価・指導法のSHINKAによる科学技術人材育成方法の開発 ※SHINKAには、次の①～④の4つの意味を込めている。 ① 芯化…SSH事業を本校の探究活動の芯（軸）に据える ② 進化…第Ⅰ期の内容を更に進化させる ③ 深化…第Ⅰ期の内容を更に深化させる ④ 真化…第Ⅰ期の内容に真の価値をもたせる																																																																																	
② 研究開発の概要		第Ⅱ期では、下記の【目標①】～【目標④】を達成するため、＜仮説1＞～＜仮説3＞を立て、 （1）～（8）について研究開発を進めている。  【目標①】社会課題を科学的な切り口で多角的に分析するカリキュラムの開発 【目標②】地域の各機関と連携した科学的探究力・協働実践力育成課題探究プログラムの開発 【目標③】県外SSH指定校、海外の高校等多様な相手との交流・共同研究システムの開発 【目標④】生徒のメタ認知力と教員の指導力双方を向上させる「真正の評価」の開発  ＜仮説1＞第Ⅰ期の科学基礎（第Ⅱ期ではサイエンス基礎に名称変更）に加え、社会課題を科学的な 切り口で多角的に分析するカリキュラムの開発により、科学的探究力と科学への興味関心 双方が向上し創造性が発露する。 ＜仮説2＞多様な他者との協働探究により科学的探究力・協働実践力を育成できる。 ＜仮説3＞「真正の評価」を目指した継続的改善・検証により、生徒のメタ認知力と教員の指導力双 方が向上する。  研究開発（1）サイエンス基礎（2）OMURA STEAM LABO（3）探究プラットフォーム（以下PF）Ⅰ （4）探究PFⅡA（5）探究PFⅡB（6）探究PFⅡC （7）他校、海外等との交流・連携（8）評価とカリキュラム・マネジメント																																																																																	
③ 令和7年度実施規模		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学科・コース</th> <th colspan="2">第1学年</th> <th colspan="2">第2学年</th> <th colspan="2">第3学年</th> <th colspan="2">計</th> <th rowspan="2">実施規模</th> </tr> <tr> <th>生徒数</th> <th>学級数</th> <th>生徒数</th> <th>学級数</th> <th>生徒数</th> <th>学級数</th> <th>生徒数</th> <th>学級数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文理探究科</td> <td>82</td> <td>2</td> <td>80</td> <td>2</td> <td>80</td> <td>2</td> <td>242</td> <td>6</td> <td rowspan="5">全校生徒 を対象に 実施</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">普通科</td> <td>理系</td> <td></td> <td>79</td> <td>2</td> <td>71</td> <td>2</td> <td>150</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>文系</td> <td></td> <td>118</td> <td>3</td> <td>110</td> <td>3</td> <td>228</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>180</td> <td>5</td> <td>197</td> <td>5</td> <td>181</td> <td>5</td> <td>558</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>家政科</td> <td>36</td> <td>1</td> <td>32</td> <td>1</td> <td>31</td> <td>1</td> <td>99</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>298</td> <td>8</td> <td>309</td> <td>8</td> <td>292</td> <td>8</td> <td>899</td> <td>24</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								学科・コース	第1学年		第2学年		第3学年		計		実施規模	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	文理探究科	82	2	80	2	80	2	242	6	全校生徒 を対象に 実施	普通科	理系		79	2	71	2	150	4	文系		118	3	110	3	228	6		計	180	5	197	5	181	5	558	15	家政科	36	1	32	1	31	1	99	3	計	298	8	309	8	292	8	899	24	
学科・コース	第1学年		第2学年		第3学年		計		実施規模																																																																										
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数																																																																											
文理探究科	82	2	80	2	80	2	242	6	全校生徒 を対象に 実施																																																																										
普通科	理系		79	2	71	2	150	4																																																																											
	文系		118	3	110	3	228	6																																																																											
	計	180	5	197	5	181	5	558		15																																																																									
家政科	36	1	32	1	31	1	99	3																																																																											
計	298	8	309	8	292	8	899	24																																																																											
④ 研究開発の内容		○研究開発計画 <table border="1"> <tr> <td>サイエンス基礎 OMURA STEAM LABO</td> <td>探究PFⅠ、探PFⅡA・ⅡB・ⅡC (※第Ⅰ期SS探究→第Ⅱ期探究PF)</td> <td>他校、海外等との交流・連携</td> <td>評価とカリキュラム・マネジメント</td> </tr> </table>								サイエンス基礎 OMURA STEAM LABO	探究PFⅠ、探PFⅡA・ⅡB・ⅡC (※第Ⅰ期SS探究→第Ⅱ期探究PF)	他校、海外等との交流・連携	評価とカリキュラム・マネジメント																																																																						
サイエンス基礎 OMURA STEAM LABO	探究PFⅠ、探PFⅡA・ⅡB・ⅡC (※第Ⅰ期SS探究→第Ⅱ期探究PF)	他校、海外等との交流・連携	評価とカリキュラム・マネジメント																																																																																

第1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>■開発教材の実施</li> <li>■教材の改善</li> <li>■ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■探究PFⅠの開発・実施</li> <li>■SS探究ⅡAの実施</li> <li>■SS探究ⅡBの実施</li> <li>■SS探究ⅡCの実施</li> <li>※令和5年度2・3年生は、第Ⅰ期のプログラムで実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ネットワーキング・ミーティング【p.7参照】の実施</li> <li>■広島大学附属高等学校との探究活動の連携開始</li> <li>■2年数理探究科のアメリカ海外研修実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第Ⅱ期用ルーブリックを用いた評価の新規実施</li> <li>■単元配列表と「思考を深める問い」のデータベースの作成【pp.24~26参照】</li> </ul>
第2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>■改良を加えた開発教材の実施</li> <li>■教材の評価と改善</li> <li>■ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価の改善・実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■探究PFⅠの実施</li> <li>■探究PFⅡAの実施</li> <li>■探究PFⅡBの実施</li> <li>■探究PFⅡCの実施</li> <li>■大村高校探究活動コンソーシアム【p.23参照】の本格運用開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ネットワーキング・ミーティングの改善・実施</li> <li>■未来デザイン・イノベーションフェア【p.5参照】の改善</li> <li>■2年文理探究科のシンガポール・マレーシア海外研修の新規実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■各事業や各教科とルーブリックの評価指標の関連の分析</li> <li>■単元配列表と「思考を深める問い」のデータベースの改訂</li> </ul>
第3年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>■実践を踏まえた教材の改良</li> <li>■開発教材の冊子化及びHP等による外部への発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■探究PFⅠの改善・実施</li> <li>■探究PFⅡAの改善・実施</li> <li>■探究PFⅡBの改善・実施</li> <li>■探究PFⅡCの改善・実施</li> <li>■大村高校探究活動コンソーシアムの改善・運用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ネットワーキング・ミーティングの連携対象の拡大検討</li> <li>■理科部を中心とした地域への普及活動の充実</li> <li>■シンガポール・マレーシア海外研修の改善・実施→県が規定する予算内により研修を充実させるため、台湾に変更</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ルーブリック評価、ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価の中間総括</li> <li>■単元配列表と「思考を深める問い」のデータベースの継続改訂</li> </ul>
第4年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>■実践を踏まえた教材の改良、充実</li> <li>■ミニ課題探究や他教科との連携の強化</li> <li>■開発教材の改良及び外部への普及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■中間評価の結果をもとに、探究PFの内容について検証し、必要に応じて見直しを実施</li> <li>■必要に応じて、大村高校探究活動コンソーシアムの再構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■県外SSH指定校との連携強化</li> <li>■コンテストへの応募や外部での発表数増加に向けた体制の構築</li> <li>■シンガポール・マレーシア海外研修のオンラインを活用した交流の検討→台湾研修の改善・実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■中間評価の結果をもとに、カリキュラム・マネジメントの改善に関する進捗状況の確認</li> </ul>
第5年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>■文理探究科以外への導入の検討</li> <li>■内容の深化を図り、次期研究開発に継承</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■次期研究開発に向けた探究活動における探究PFの内容の総括及び外部連携体制づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■県内、県外SSH指定校等との各事業を総括し、次期研究開発に継承</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■単元配列表と「思考を深める問い」のデータベースの完成</li> <li>■評価法を総括し、次期研究開発に継承</li> </ul>

### ○教育課程上の特例

学校設定科目	対象学年・クラスまたはコース等	単位数	教育課程の特例
OMURA STEAM LABO	文理探究科1学年・2クラス	1	「総合的な探究の時間」1単位の代替
探究PFⅠ	全学科1学年・8クラス	1	「総合的な探究の時間」1単位の代替
探究PFⅡA	文理探究科2学年・理数探究	2	理数「理数探究」2単位の代替
	文理探究科2学年・国際探究	2	「総合的な探究の時間」2単位の代替
探究PFⅡA	文理探究科3学年・1クラス	1	理数「理数探究」1単位の代替
探究PFⅡB	普通科2学年・5クラス	2	「総合的な探究の時間」2単位の代替
探究PFⅡB	普通科3学年・6クラス	1	「総合的な探究の時間」1単位の代替
探究PFⅡC	家政科2学年・1クラス	1	「総合的な探究の時間」1単位の代替
探究PFⅡC	家政科3学年・1クラス	1	「総合的な探究の時間」1単位の代替

学校設定科目の開設により、3年一貫体制で、探究活動に必要なスキルや能力を習得することができるようになった。令和5年度から年次進行で第Ⅱ期の内容に変更（名称もSS探究から探究PFに変更）しており、成果が高まるように検証・改善を続けていきたい。

### ○令和7年度の教育課程の内容のうち特徴的な事項

学科	第1学年		第2学年		第3学年		対象
	教科・科目名	単位数	教科・科目名	単位数	教科・科目名	単位数	
文理探究科	サイエンス基礎	1	探究PFⅡA	2	探究PFⅡA	1	文理探究科全員
	OMURA STEAM LABO	1					
	探究PFⅠ	1					
普通科	探究PFⅠ	1	探究PFⅡB	2	探究PFⅡB	1	普通科全員
家政科	探究PFⅠ	1	探究PFⅡC	1	探究PFⅡC	1	家政科全員

- (1) 「サイエンス基礎」「探究PFI」と「理数物理」「理数化学」「理数生物」との連携
- (2) 「OMURA STEAM LABO」と「数学」「公民(哲学)」「英語」との連携
- (3) 第1学年家政科は「探究PFI」において専門科目「ファッション造形基礎」と連携
- (4) 「探究PFIⅡA」は「理数」、「探究PFIⅡB」は「理科」「数学」、「探究PFIⅡC」は「理科」「数学」「家庭科」と連携

○具体的な研究事項・活動内容

(1) 学校設定科目「サイエンス基礎」(1年文理探究科1単位)

物・化・生・地の枠を越えた領域横断的で多面的な見方・手法の育成を図る。

項目	内容
観る	■野草を観る・ひび割れを観る
測る	■米粒数の予測・・・理数生物と連携
定性と定量	■岩石の黒っぽさ・水の濁り具合(色指数・濁度)
モデル化とシミュレーション	■埃が隅に集まるわけ
仮説と検証	■紙コップの下にできる水滴の由来
多様性と共通性	■物質の多様性と共通性(プラスチックの識別実験) ■生物の多様性と共通性(海の小動物・自然観察実習)・・・理数生物と連携
課題探究入門	■課題探究の進め方・・・探究PFIのミニ課題探究と連動
評価・指導法	■最良ポートフォリオ作成(7月、11月) ■ポートフォリオ検討会(相互評価・自己評価、教員評価:8月、12月) ■生徒アンケートによる教材、資質向上の評価(1月)

(2) 学校設定科目「OMURA STEAM LABO」(1年文理探究科1単位)

社会課題を科学的な切り口で多面的に分析する力の育成を図る。

項目	内容
統計の基礎知識の習得	■分散・標準偏差・相関・確率分布・正規分布等の習得
仮説検定について	■仮説検定の基本的な内容に関する講義・演習
科学英語入門	■2年次の英語ポスター作製に向けて、科学英語について学ぶ
クリティカルシンキングを発揮した統計的資料の分析	■因果関係と相関関係の違いに着目した資料の読み方の習得
哲学入門	■STEAM教材における討議に向けた判断力の育成を目指す
発電の仕組み・技術について	■各エネルギーの発電の仕組みや技術について学ぶ
STEAM教材「エネルギー問題」	■「これからの日本において、エネルギーの発電利用はどうあるべきか」について、資料をまとめ、討議を行う
評価・指導法	■生徒アンケートによる教材、資質向上の評価(1月) ■ループブック評価、ポートフォリオ評価(2月)

(3) 学校設定科目「探究PFI」(1年全学科1単位)特に記載のないものは全学科対象

大高探究ビルディング、外部連携、批判的思考力養成講座、ミニ課題探究(テーマは生徒が設定)等により課題発見力と探究の基礎力の育成を図る。

項目	内容
ガイダンス 大高探究ビルディング	■探究PFIガイダンス ■班でのものづくりを通じて、探究活動とは何かを知る
外部連携講座	■探究力向上講座 ■課題発見セミナー(講座数10) ■水環境講座(文理探究科) ■先端科学研究・最新医療研修 工業技術センター研修/バイオジェノミクス社研修(文理探究科) ■大学施設訪問研修(文理探究科) ■繊維と染色の科学講座(家政科)・・・「ファッション造形基礎」と連携
批判的思考力養成講座	■外部検査を用いた評価と振り返り(学びみらいPASS:河合塾を使用)

かはくVR探究	■かはくVRを用いてポスター作製、発表など探究活動の一連の流れを体験
ミニ課題探究	■探究活動（班に分かれての活動） ■発表会（1・2年生合同）
評価・指導法	■ループリック評価（7月、1月） ■生徒アンケートによる企画と資質向上の評価（企画ごと及び1月）

**（４）学校設定科目「探究PFⅡA」（2年文理探究科2単位・3年文理探究科1単位）**

課題探究（テーマは生徒が設定）、外部連携、海外研修等により科学的探究力向上を図る。

項目	内容
課題探究	第2学年 ■課題探究の進め方についての講義 ■科学英語プレゼンテーション研修（英語での発表と外部ALT等による指導） ■2年生課題探究中間発表会（ポスターセッション形式、1・2年生合同） 第3学年 ■長崎県理数科高等学校課題研究発表大会（優秀賞2班） ■3年生課題探究発表会（代表による口頭発表とポスターセッション） ■課題探究ミニ論文作成
外部連携講座	第2学年 ■科学探究講座（外部講師による1日研修） ■地学研修講座 ■大学セミナー（講座数13）…探究PFⅡB、ⅡCと共通 ■科学プレゼンテーション研修（長崎大学水産学部より講師招聘） ■長崎県立大学実習
評価・指導法	第2学年 ■ループリック評価（7月、1月） ■生徒アンケートによる企画と資質向上の評価（1月） 第3学年 ■ループリック評価（9月）

**（５）学校設定科目「探究PFⅡB」（2年普通科2単位・3年普通科1単位）**

課題探究（テーマは生徒が設定）、外部連携等により科学的探究力向上を図る。

項目	内容
課題探究	第2学年 ■テーマ設定についてのガイダンス（本校教員及び外部講師） ■課題探究ミニ中間発表会（途中経過の発表と相互アドバイス） ■課題探究中間発表会（ポスターセッション形式、1・2年生合同） 第3学年 ■3年生課題探究発表会（代表による口頭発表とポスターセッション） ■課題探究ミニ論文作成
外部連携講座	第2学年 ■大学セミナー（講座数13）…探究PFⅡA、ⅡCと共通 ■広島大学附属高等学校との課題探究交流
評価・指導法	第2学年 ■ループリック評価（7月、1月） ■生徒アンケートによる企画と資質向上の評価（1月） 第3学年 ■ループリック評価（9月）

**（６）学校設定科目「探究PFⅡC」（2年家政科1単位・3年家政科1単位）**

外部連携セミナー等により科学的探究力向上を図る。

項目	内容
外部連携セミナー	第2学年 ■外部講師を招聘したセミナーとその事前事後学習 ・生物セミナー（本校職員による） ・放射線セミナー ・食品セミナー ・環境セミナー ・住居防災セミナー ・スポーツ栄養セミナー ・課題発見セミナー ・データ活用セミナー ・大学セミナー（講座数13）…探究PFⅡA、ⅡBと共通 第3学年 本校職員で対応
個人リサーチ	第2学年

	■ 3年次の課題研究におけるテーマ設定のための情報収集
評価・指導法	第2、3学年 ■ 生徒アンケートによる企画と資質向上の評価（企画ごと）

**(7) 他校、海外等との交流・連携（理科部、希望生徒）**

県内外 SSH 指定校等との共同研究や発表会、海外高校との交流により協働実践力の育成を図る。

項目	内容
理科部の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大村市子ども科学館まつりへの参加</li> <li>■ 第10回水中ロボットフェスティバル ジュニア部門 競技部門2位、総合3位</li> <li>■ 令和7年度空飛ぶ未来を拓くドローンワールドプロジェクト「ドローンプログラミングチャレンジ2025」ロボット制御コース 最優秀賞</li> <li>■ 高校生ドローンコンテスト 優勝・準優勝</li> <li>■ 長崎県科学研究発表大会 口頭発表部門 口頭発表部門 物理部門 最優秀賞 展示発表部門 生物部門 優良賞</li> <li>■ 長崎ペンギン水族館 第3回 Nature Science Campus</li> </ul>
他校との共同研究・発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 初スジェネレーション・ミーティング（東京学芸大学附属国際中等教育学校、筑波大学附属駒場高等学校との共同研修）</li> <li>■ 留学生交流研修（鎮西学院大学の留学生）</li> <li>■ 未来デザインイノベーションフェア（県内 SSH 指定校主催合同発表会）</li> </ul>
学会発表 コンテスト等への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会</li> <li>■ 中国・四国・九州理数科高等学校課題研究発表会（2班4名）</li> <li>■ 長崎西・大村高校共同運営「Science Journal for Youths, Nagasaki 若者たちの科学雑誌」への論文投稿2本</li> <li>■ ハートパルまつりへの参加</li> </ul>

**(8) 評価とカリキュラム・マネジメント**

生徒と教員の双方を伸ばすためのルーブリック評価・ポートフォリオ評価・パフォーマンス評価を開発する。

単元配列表・「思考を深める問い」のデータベースを作成し、全教科と探究活動との接続を図る。

項目	内容
「真正の評価」の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ルーブリック評価の有効性・妥当性の検証のため、外部テスト（学びみらい PASS：河合塾）を用いた検証法の開発</li> <li>■ 生徒・教師双方によるポートフォリオ評価の検証法の開発</li> <li>■ パフォーマンス評価の新規開発</li> </ul>
カリキュラム・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 単元配列表（全教科とSSH事業のつながりを一覧にしたもの）の作成</li> <li>■ 「思考を深める問い」（教師が授業で投げかける問い）のデータベース化</li> <li>■ 授業互見期間設定や職員研修の充実による職員の指導力向上</li> <li>■ 通常の授業におけるルーブリック評価の実施</li> </ul>

**⑤ 研究開発の成果**（根拠となるデータ等は「③関係資料」に掲載。）

**○実施による成果とその評価**

**【目標①】社会課題を科学的な切り口で多角的に分析するカリキュラムの開発**

第Ⅰ期の学校設定科目「科学基礎（第Ⅱ期ではサイエンス基礎に名称変更）」で、社会課題と科学とを結びつけての指導に改善の余地があり、科学への興味関心の喚起が十分ではなかった。その反省から、第Ⅱ期では、「サイエンス基礎」と「OMURA STEAM LABO」の2つの学校設定科目を開発することで、社会課題を科学的な切り口で多角的に分析する力の育成を目指し、興味関心の喚起に加え、創造性をより発露させる力を与えるように取り組み、改善を行っていく。

**(1) サイエンス基礎（第1学年文理探究科）【関係資料①参照】**

**取組** パフォーマンス評価を加えることで「真正の評価」の継続的改善・検証を進めている。

**成果** 本年度は、運営指導委員からのアドバイスを元に、でんじろう先生の「はぴエネ」（※サイエンスプロデューサーの米村でんじろう氏が出演する教養番組で、日常の疑問や科学現象を実験で解き明かす内容である）を題材としたパフォーマンス課題を作成し、実施した。また、生徒が作製したポスターに対する指摘などを定性的に評価するパフォーマンス課題につ

いても開発を進めている。ルーブリック評価の「問題解決力」・「論理的思考力」の指標は、概ね昨年度と同様の水準を保つことができ、かつⅠ期平均よりも高かった。

**評価** パフォーマンス課題について、引き続き研究開発が必要である。

## (2) OMURA STEAM LABO (第1学年文理探究科) 【関係資料②参照】

**取組** 「エネルギー」をテーマに、統計・科学英語・哲学などの教科横断で開発を進めている。

**成果** 本年度は、仮説検定を普通科等にも普及させるため、熊本大学の古賀竣也氏と共同して、高校生で利用頻度が高い数種類の仮説検定について、マニュアルを作成した。また、昨年度 OMURA STEAM LABO で学習したことを元に、2年生の英語担当者が通常の授業の中で、エネルギーをテーマとしたディベート教材を開発した。生徒アンケートの結果、昨年度に引き続き、全項目で約80%の生徒が、効果があったという肯定的な意見を挙げている。内外教育2024年4月16日号(時事通信社発刊)、JSTが管理する学習教材紹介サイトサイエンスティームに掲載された。

**評価** 仮説検定のマニュアルを完成させ、学校設定科目と英語の通常の授業の接続ができており、研究開発がおおむね順調に進んでいる。

## 【目標②】地域の各機関と連携した科学的探究力・協働実践力育成課題探究プログラムの開発

第Ⅱ期で構築を進めている大村高校探究活動コンソーシアムや外部リソースを活用しながら学校設定科目を中心にプログラムの開発を進めている。

## (3) 探究PFI (第1学年全学科) 【関係資料③参照】

**取組** 「わくわく感」を大切に、体験を通じて、探究活動に必要なスキルの習得を図っている。

**成果** 各プログラムの改善が進んだことにより1年生7月と1月に実施したルーブリック評価において、ほとんどの項目で評価が向上した。また、昨年度の1学年と比較してもルーブリックの評価指標がすべての項目で向上した。

**評価** プログラムの実施時期や内容、運営方法等をその都度検証・改善している成果が出てきていると判断できる。

## (4) 探究PFIIA (第2学年文理探究科・第3学年文理探究科) 【関係資料④参照】

**取組** 第Ⅰ期のプログラムの成果を基に、更に改良して第Ⅱ期のプログラムを展開している。

**成果** コロナ禍や研修先の変更により中止になっていた海外での英語ポスター発表が今年度から復活したこともあり、科学英語プレゼンテーション研修に対する生徒の意識の向上が窺えた。

**評価** 科学英語プレゼンテーション研修も含め各プログラムの検証・改良を重ねたことによる成果が出ているものと推察される。

## (5) 探究PFII B (第2学年普通科・第3学年普通科) 【関係資料⑤参照】

**取組** 第Ⅰ期よりも探究活動が充実できるようなシステムの構築を推進している。

**成果** 第Ⅱ期では、外部機関との連携強化のために大村高校探究活動コンソーシアム【p.23参照】の構築に取り掛かり、その結果、外部とつながる班が多数(毎年20~30班程度)出てきた。コンソーシアム構築の成果が出ていると思われる。

**評価** 生徒の探究活動の支援体制は整いつつあるので、引き続き、探究活動の活性化につながるシステムづくりを更に進めていく必要がある。

## (6) 探究PFII C (第2学年家政科・第3学年家政科) 【関係資料⑥参照】

**取組** 第Ⅱ期では、3年次の家政科課題研究の質を向上させることを目指して、2年次の外部連携セミナーの更なる充実を図っている。

**成果** 令和5年度にデータ活用セミナー、令和6年度に住居防災セミナー、スポーツ栄養セミナーを新規実施し、3年時の家政科課題研究に向けて効果的なセミナーとなった。データを取り、考察を行う研究が増え、地域のイベントなど外部とつながる研究が複数出てくるなど、研究の質も向上してきた。また、第Ⅰ期から継続してセミナーを担当している講師から、次のようなコメントがあり、生徒の定性的な変化も見られる。

<講師のコメント>

「ここ数年同じテーマで授業をしていますが、昨年度と生徒のレディネスを比較すると、こちらの問いかけに関する思考の粘り強さや文章で論理的に自分の考えを表現しようとする力が増しているように感じました。生徒のレポートからもそれが垣間見えます。現場での先生方のご指導と、それに努力を惜しまずしっかりついてきている生徒らの頑張りの賜物と拝察します。」

**評価** プログラムの継続的な改善が、成果として実を結び始めていると評価できる。

### 【目標③】 県外SSH指定校、海外の高校等多様な相手との交流・共同研究システムの開発

第Ⅰ期は、主に県内の高校との連携を進めて来たが、第Ⅱ期は、連携対象を県外SSH指定校や海外の高校等に拡充することで、国際的に活躍する科学技術人材育成につなげたいと考えている。

#### (7) 他校、海外等との交流・連携（理科部・希望生徒）【関係資料⑦参照】

長崎西高校と共同運営するオンライン学術誌「Science Journal for Youths, Nagasaki 若者たちの科学雑誌」（全国の高校生）

**取組** 令和5年度から大村高校と長崎西高校でオンライン国際学術誌を共同運営している。編集委員には、全国の大学の研究者等が参加しており、掲載内容のチェックを行っている。

**成果** 専用サイトを開設し、意欲がある全国の生徒に電子出版する機会を無償で提供する取組となっており、本校生徒の研究成果も掲載されている。令和6年度全国版SSHパンフレットでも紹介された。令和7年度は、熊本県や本校卒業生からの投稿もあった。

**評価** 全国的に見ても他にない取組であるので、今後も継続的に運営していきたい。

#### ネクストジェネレーション・ミーティング（第1学年文理探究科）

**取組** 第Ⅱ期から県外のSSH指定校との交流事業も新規実施した。東京学芸大学附属国際中等教育学校、筑波大学附属駒場高等学校の生徒に来県してもらい、データサイエンスの観点から根拠をもって「世界遺産 軍艦島を今後どうしていくべきか」について、発表・討議を行った。

**成果** 実施3年間ともルーブリック評価の結果も良く、研究開発は順調に進んでいる。【関係資料⑦ 表⑦-1 参照】長崎新聞での記事掲載、大村ケーブルテレビでの番組制作、文部科学教育通信2024年10月1日号（ジアース教育新社発刊）での掲載があった。

**評価** 各種メディアに取り上げられるなど、注目度も高いプログラムとなっており、今後も継続して実施していきたい。

#### 広島大学附属高等学校との交流（第2学年普通科）

**取組** 第Ⅱ期から県外のSSH指定校である広島大学附属高等学校との探究活動における交流をスタートさせた。具体的な交流の内容としては、①お互いの課題研究発表会におけるポスター展示、②お互いの探究活動についてオンラインを利用した発表・意見交換、③2月に開催される広島大学附属高等学校「SSHの日」への生徒派遣及びポスター発表、である。

**成果** 年々交流規模を拡大しており、令和7年度は、普通科・家政科の生徒の派遣をスタートさせ、全学科でのSSH事業展開に資するプログラムとなっている。また、毎年教員を2名ずつ引率として派遣しており、研鑽を積んでもらうことで教員の資質向上につながっている。

**評価** 本校では、文理探究科・普通科・家政科全学科がSSH事業の主対象であるので、今後も全校体制での探究活動を活性化させるプログラムの1つとして継続して実施していきたい。

#### 【目標④】生徒のメタ認知力と教員の指導力双方を向上させる「真正の評価」の開発

※「真正の評価」とは、『学校だけで通用する課題への取組にとどまらず、現実世界で大人も直面するようなほんものの課題に取り組むことができたのかどうかを対象とするもの』とある。（引用：高瀬裕人(2014)「自立した読者を育成するための〈真正の評価〉」,『国語科教育』第75集, pp.72-79）本校では「真正の評価」を、得た知識を研究活動や現実社会でも活用できる能力を見定めるための評価と定義し、ペーパーテストに加え、到達度目標評価（以下、「ルーブリック評価」と記載）、ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価（新規実施）などを用いて、開発を行う。

#### (8) 評価とカリキュラム・マネジメント【関係資料⑧・⑨・⑩参照】

##### ルーブリック評価（全生徒）【関係資料⑨・⑩】及び【pp. 21～23 参照】

**取組** ルーブリック評価の有効性・妥当性の検証のため、学びみらいP A S Sを用いて研究開発を進めている。第Ⅱ期では、第Ⅰ期から更に進化したSSH事業を展開するため、ルーブリックを改編【p. 23 参照】した。ルーブリック評価の改編に併せて、各SSH事業がルーブリックのどの評価指標の伸長に寄与したかについても分析を始めた。令和7年度は、通常の授業においてもルーブリック評価の検証に関する研究開発に着手した。

**成果** ルーブリックと学びみらいP A S Sのそれぞれの評価指標の伸長が分かるワークシートを作成した。また、各SSH事業がルーブリックのどの評価指標の進捗に寄与したかを分析したことにより、プログラムの改善の方向性が見通しやすくなった。

**評価** ルーブリック評価の有効性・妥当性の検証については、引き続き研究開発を進める必要がある。また、事業評価の方法の1つとなり得るので、第Ⅱ期の5年間をかけて検証を行いたい。また、通常の授業におけるルーブリック評価の研究開発についても継続が必要である。

##### ポートフォリオ評価（第1学年文理探究科）

**取組** 第Ⅱ期では、これまでポートフォリオを作成してきたサイエンス基礎（第Ⅰ期の科学基礎より名称変更）の成果を基に、OMURA STEAM LABOでもポートフォリオ作成を始めた。

**成果** プログラム開発が進んだことにより、実施初年度の令和5年度よりも説明に適切なデータを収集したり、各発電方法のメリット・デメリットやその他の諸条件について複眼的に論じたりしているポートフォリオが年を追う毎に増えている。（令和7年度は全体の89%まで到達）

**評価** OMURA STEAM LABOのプログラムの研究開発が進んでいることが窺えた。

##### パフォーマンス評価（第1学年文理探究科）【関係資料①参照】

**取組** 第Ⅱ期では、第Ⅰ期の取組に加え、パフォーマンス評価も取り入れ、生徒と教員の双方を伸ばす「真正の評価」の継続的改善とその検証に取り組んでいる。令和7年度は、でんじろう先生の「はぴエネ」（※p5参照）を題材としたパフォーマンス課題を研究開発し、実施した。

**成果** 本年度、新たに物理分野に関するパフォーマンス課題を研究開発することができた。

**評価** 開発したパフォーマンス課題の検証及び他のパフォーマンス課題の研究開発を継続して進めていく必要がある。

##### 単元配列表（全教職員）【pp. 24～26 参照】

**取組** 第Ⅱ期では、課題探究活動を中心としたSSH事業と通常の授業との接続を推進するため、全教科・科目で単元配列表の作成に着手した。

**成果** 年次進行で作成を進め、単元配列表とルーブリックの評価指標との関連が分かるような改良を施しながら、令和7年度、3学年分が完成した。

**評価** 完成した単元配列表の有効な活用方法について、検証を進める必要がある。

### 思考を深める問い（全教職員） 【関係資料⑧参照】

**取組** 第Ⅱ期では、単元配列表の作成に加え、教員が生徒に投げかける各授業における探究につながる問いである「思考を深める問い」のワークシートを作成し、それをデータベース化する取組もスタートさせた。令和6年度から、教員が活用しやすいように、データベース化とともに冊子化も行った。

**成果** A4 1枚のワークシート作成ということもあり、教員の取組状況も良く、SSH事業と通常の授業との接続への意識づけとなった。

**評価** 教員の意識改革のための取組の1つであり、今後は本校ホームページ上での公開に向けて準備を進めていきたい。

### 授業互見期間の設定（全教職員）

**取組** 第Ⅰ期の中間ヒアリングの指摘にあった「教師の研修について、例えば、授業を互見する機会を増やすなど、お互いの授業力の向上を図る取組が求められる」について、第Ⅱ期では毎年10月に授業互見期間を設定し、教科・科目の枠を超えて実施をしている。

**成果** 教員の約半数が自身の担当教科・科目以外を参観しており、教員が幅広い視座を得られる取組となっている。

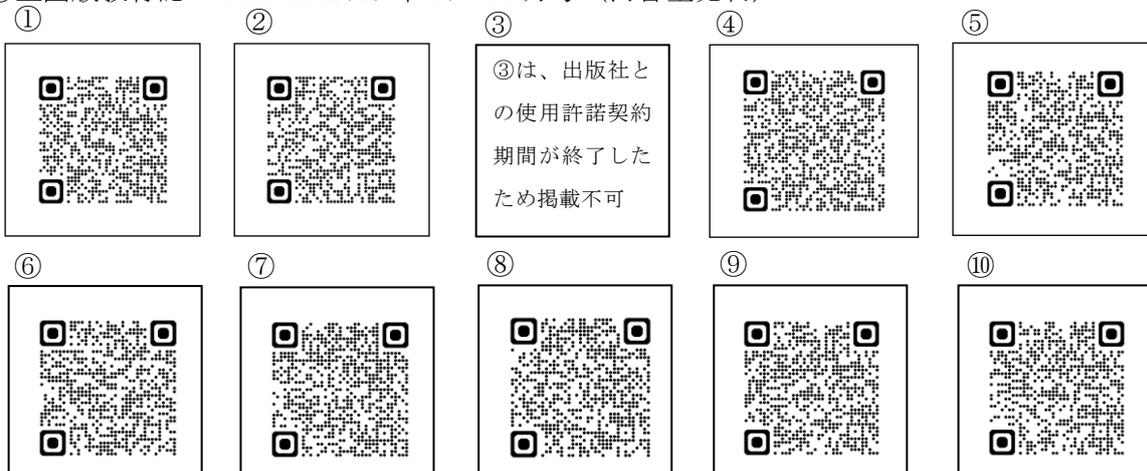
**評価** 教員の意識改革のための取組の1つであり、期間を複数回設定するなど、取組を推進していきたい。

### **【その他の成果】**

#### 本校のSSH事業に関する取組の複数の媒体による全国紹介

本校の第Ⅱ期SSH事業の取組を取り上げた全国対象の主なものは下記のとおりである。

- ①全国版教育誌 Benesse VIEW next 2023年6月号
- ②全国の教育機関関係者対象「東京学芸大学高校探究プロジェクト 教科横断プログラム開発ワークショップ」における実践事例報告
- ③全国版教育誌 内外教育 2024年4月16日号（時事通信社発刊）
- ④全国版教育誌 文部科学教育通信 2024年10月1日号（ジアース教育新社発刊）
- ⑤令和6年度全国版SSHパンフレット掲載（長崎西高等学校との連携事業）
- ⑥全国版教育誌 「探究」への導き 2026号（大学新聞社発刊）
- ⑦全国版教育誌 月刊高校教育 2025年6月号（学事出版発刊）
- ⑧全国版教育誌 大学新聞 240号（大学新聞社発刊）
- ⑨国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が管理する全国版学習事例紹介サイト『サイエンスティーム』への開発教材（2プログラム）掲載
- ⑩全国版教育誌 Guideline 2025年10・11月号（河合塾発刊）



## 進学希望状況調査における本校への進学希望倍率の上昇

第Ⅱ期SSH事業が開始して以降、本校を志望する中学生の数は年々増加傾向にある。

大村高校学校全体での進学希望倍率

7月調査【R3:0.92 → R4:0.99 → R5(第Ⅱ期開始):0.99 → R6:1.07 → R7:1.17 → R8:1.16】

11月調査【R3:0.83 → R4:0.87 → R5(第Ⅱ期開始):1.00 → R6:1.01 → R7:1.02 → R8:0.91】

### ⑥ 研究開発の課題 (根拠となるデータ等は「⑤関係資料」に掲載。)

#### (1) サイエンス基礎

**課題** パフォーマンス評価の検証及び改善

**R6→R7改善** でんじろう先生の「はぴエネ」(※p5参照)を題材としたパフォーマンス課題の研究開発

生徒が作製したポスターに対する指摘などを定性的に評価するパフォーマンス課題の研究開発

**来年度に向けた改善策** 今年度実施したパフォーマンス課題の検証及び継続開発

#### (2) OMURA STEAM LABO

**課題** 各プログラムの接続の改良及びサイエンス基礎との日程調整

**R6→R7改善** 仮説検定に関するマニュアル作成

**来年度に向けた改善策** 冊子へのマニュアル追加による普通科・家政科への仮説検定の波及

#### (3) 探究PFI

**課題** 1年時のミニ課題探究におけるテーマ設定

**R6→R7改善** 昨年度まで2年次に実施していた探究力向上講座を1年次実施に変更

**来年度に向けた改善策** より効果的な各プログラムの実施時期の検討

#### (4) 探究PFI A

**課題** 海外研修の充実

**R6→R7改善** 台湾の交流校における課題探究英語ポスターでの発表の実施

**来年度に向けた改善策** オンライン交流も含めた海外研修の事前・事後プログラムの充実

#### (5) 探究PFI B

**課題** 大村高校探究活動コンソーシアムの更なる充実

**R6→R7改善** 大村市役所内における探究活動を支援する部署の設置準備

**来年度に向けた改善策** 大村市役所と連携して円滑な運営ができるようなシステムの構築

#### (6) 探究PFI C

**課題** 3年次の家庭科課題研究に活用できるセミナーの導入及び内容の継続的検証

**R6→R7改善** 第Ⅱ期で新規実施したセミナーの検証

**来年度に向けた改善策** 家政科教員と協力したセミナーの更なる充実・改編

#### (7) 他校、海外等との交流・連携

**課題** ネクストジェネレーション・ミーティングにおける他校の旅費(受益者負担)、高大接続推進

**R6→R7改善** 本校のSSH予算では負担できないため、他の研究助成金に申請を行った  
長崎総合科学大学と高大接続に向けた協議を開始した

**来年度に向けた改善策** 予算に関する対策の継続検討及び高大接続に向けた継続協議

#### (8) 評価とカリキュラム・マネジメント

**課題** ルーブリック評価の検証、単元配列表の活用

**R6→R7改善策** 通常の授業におけるルーブリック評価の一部実施

ルーブリック評価と紐づけした3学年分の単元配列表の作成

**来年度に向けた改善策** 通常の授業におけるルーブリック評価の本格運用及び完成した単元配列表、授業互見期間、思考を深める問いなどの取組を連動させて、カリキュラム・マネジメントにつなげていく

### ③関係資料

関係資料①：サイエンス基礎に関する調査結果等

表①-1 サイエンス基礎 パフォーマンス課題 評価基準

「Q1・Q2」と「Q3」とでそれぞれ5段階評価で採点を行った。

Q1・Q2

5	「大きさのある物体の力のつり合い」「重力・揚力」を用いてわかりやすく言及しようとしている
4	「大きさのある物体の力のつり合い」「重力・揚力」を用いて言及しようとしているが、理解が不十分。
3	“揚力の発生”または“運動”のみの説明に終始している
2	“揚力の発生”または“運動”のみの説明に終始していて、かつ理解を間違っている(平たい円盤では揚力は働かないなど。傾けば働くが円盤が傾くことを想定していない。)
1	事前講義内容を無視して説明しようとしている

Q3 ※ 板の説明が不十分の場合は、-1ランクする。

5	評価4を満たしつつ、着想が採点者の想像を超えてくる面白い着眼点である。
4	①がここまでの講義に基づいた疑問に着想を得ている。+②や③の記述に説得力がある(力の図示を行えている。)
3	①がここまでの講義に基づいた疑問に着想を得ている。+②や③の記述が説得力に欠ける。
2	①が“ただ気になった程度で講義に基づかない”か“講義に基づくが説明不十分”だが、②や③から①選定理由の根拠がここまでの講義に基づいている。
1	①が“未記入”か“ただ気になった程度で講義に基づかない”か“講義に基づくが説明不十分”の上、②や③からも①選定理由の根拠がここまでの講義に基づいていない。

表①-2 サイエンス基礎 パフォーマンス課題 教員採点結果

	Q1・Q2 (人)	Q3 (人)
5	0%	3%
4	4%	8%
3	18%	51%
2	67%	32%
1	12%	6%
平均点	2.1	2.7

表①-3 サイエンス基礎 ルーブック評価結果

(5段階で数値が高いほど高評価) 令和7年度入学生 N=82

	令和7年度入学生					平均	仮説	R7
	5	4	3	2	1			
課題発見力	4%	26%	62%	9%	0%	3.2	◎	◎
情報収集力	0%	35%	49%	17%	0%	3.2	◎	◎
情報分析力	1%	17%	60%	22%	0%	3.0		○
論理的思考力	3%	36%	47%	14%	0%	3.3	◎	◎
プレゼンテーション力	1%	13%	56%	28%	1%	2.8	◎	○
創造的解決力	1%	18%	55%	24%	1%	2.9	○	○
創発力	9%	29%	41%	21%	0%	3.3		○
社会参画力	1%	9%	69%	21%	0%	2.9		○
自己評価力	3%	35%	51%	10%	1%	3.3	◎	◎
自己変容力	1%	31%	54%	13%	1%	3.2		◎

◎・・・5・4・3の割合が80%以上の項目 ○・・・5・4・3の割合が60%以上の項目

関係資料②：OMURA STEAM LABO に関する調査結果等

表②-1 OMURA STEAM LABO ルーブック評価結果  
 (5段階で数値が高いほど高評価) 令和6年度入学生 N=80 令和7年度入学生 N=82

	令和6年度入学生						令和7年度入学生						仮説	R6 結果	R7 結果
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均			
課題発見力	4%	44%	47%	4%	1%	3.45	4%	50%	42%	4%	0%	3.54	◎	◎	◎
情報収集力	11%	47%	33%	9%	0%	3.59	8%	54%	34%	4%	0%	3.66	◎	◎	◎
情報分析力	1%	23%	64%	8%	4%	3.09	4%	51%	36%	7%	1%	3.50	◎	◎	◎
論理的思考力	4%	37%	45%	12%	1%	3.31	5%	42%	42%	9%	1%	3.41	◎	◎	◎
プレゼン力	5%	12%	67%	16%	0%	3.07	9%	39%	34%	16%	1%	3.39	◎	◎	◎
創造的解決力	1%	24%	59%	15%	1%	3.09	4%	31%	54%	11%	0%	3.28	◎	◎	◎
創発力	5%	43%	35%	17%	0%	3.36	5%	41%	45%	9%	0%	3.42	○	◎	◎
社会参画力	1%	13%	65%	19%	1%	2.95	12%	30%	46%	20%	0%	3.18	◎	◎	◎
自己評価力	0%	33%	56%	9%	1%	3.21	12%	32%	46%	8%	1%	3.46	◎	◎	◎
自己変容力	4%	32%	52%	11%	1%	3.27	13%	46%	41%	0%	0%	3.72	◎	◎	◎

◎：その事業が能力の向上に強く寄与と思われるもの ○：その事業が能力の向上に寄与と思われるもの  
 ◎：レベル3以上が全体の80%以上と定義 ○：レベル3以上が全体の60%以上と定義

◆作成要領

次の「パフォーマンス課題」について、動画視聴前の事前講義の内容も参考にしながら、ポートフォリオを作成してください。

報告する対象は、あなたの解説を初めて聞く大人を想定してください。

**パフォーマンス課題**

Q1：平たい円盤は、円盤型フライングディスクのように飛ばない。その理由は何か？

Q2：一方、円盤型フライングディスクに似せて、平たい円盤に紙で縁(ふち)を付け加えたら飛ぶようになる。その理由は何か？

Q3：動画に出てきたフライングディスクや円盤以外で、実験としてあなたが飛ばしてみたい板は、どのような板(大きさ・形状・材質など)か。  
 ①その板を選定した理由、②それを飛ばすとどのような結果になると想定されるか？(仮説)、③なぜそのような結果が出ると想定されるか？

図②-1 本年度研究開発を行ったパフォーマンス課題

関係資料③：探究PFIに関する調査結果等

表③-1 令和6年度入学生(学年全体) 7月→1月 ルーブック評価結果の変容  
 (5段階で数値が高いほど高評価) N=297

	令和7年度入学生 7月						令和7年度入学生 1月						平均の差 (1月-7月)
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均	
課題発見力	3%	13%	53%	29%	1%	2.97	2%	20%	54%	23%	1%	3.11	0.14
情報収集力	3%	20%	53%	25%	0%	3.07	3%	26%	47%	24%	0%	3.26	0.19
情報分析力	3%	13%	49%	33%	1%	2.86	2%	15%	48%	32%	3%	2.98	0.11
論理的思考力	2%	15%	44%	36%	3%	2.85	2%	17%	47%	32%	1%	3.02	0.17
プレゼン力	2%	11%	45%	36%	6%	2.71	3%	15%	38%	41%	3%	2.90	0.19
創造的解決力	3%	16%	48%	31%	2%	2.95	2%	16%	52%	29%	1%	3.00	0.05
創発力	5%	27%	35%	32%	1%	3.20	3%	22%	45%	29%	0%	3.15	-0.05
社会参画力	4%	14%	47%	34%	2%	2.90	4%	12%	56%	29%	2%	2.90	0.00
自己評価力	4%	19%	51%	24%	3%	2.99	4%	18%	50%	27%	1%	3.10	0.11
自己変容力	4%	19%	44%	32%	1%	2.98	4%	19%	48%	28%	1%	3.15	0.16

表③-2 令和6年度入学生（学年全体）と令和7年度入学生（学年全体） 7月ルーブリック評価結果の比較  
（5段階で数値が高いほど高評価） 令和6年度入学生 N=312 令和7年度入学生 N=297

	令和6年度入学生						令和7年度入学生						平均の差 (R7-R6)
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均	
課題発見力	0%	7%	48%	43%	2%	2.59	3%	13%	53%	29%	1%	2.97	0.38
情報収集力	1%	19%	51%	27%	3%	2.88	3%	20%	53%	25%	0%	3.07	0.19
情報分析力	1%	4%	46%	46%	4%	2.52	3%	13%	49%	33%	1%	2.86	0.34
論理的思考力	0%	11%	45%	39%	5%	2.61	2%	15%	44%	36%	3%	2.85	0.23
プレゼン力	1%	5%	42%	46%	7%	2.47	2%	11%	45%	36%	6%	2.71	0.24
創造的解決力	0%	6%	48%	40%	5%	2.56	3%	16%	48%	31%	2%	2.95	0.39
創発力	3%	25%	30%	40%	2%	2.87	5%	27%	35%	32%	1%	3.20	0.33
社会参画力	1%	5%	50%	42%	3%	2.59	4%	14%	47%	34%	2%	2.90	0.31
自己評価力	2%	15%	49%	30%	5%	2.79	4%	19%	51%	24%	3%	2.99	0.19
自己変容力	1%	13%	48%	36%	2%	2.75	4%	19%	44%	32%	1%	2.98	0.23

表③-3 令和6年度入学生（学年全体）と令和7年度入学生（学年全体） 1月ルーブリック評価結果の比較  
（5段階で数値が高いほど高評価） 令和6年度入学生 N=312 令和7年度入学生 N=297

	令和6年度入学生						令和7年度入学生						平均の差 (R7-R6)
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均	
課題発見力	1%	19%	58%	22%	0%	2.97	2%	20%	54%	23%	1%	3.11	0.14
情報収集力	3%	25%	47%	26%	0%	3.04	3%	26%	47%	24%	0%	3.26	0.22
情報分析力	2%	9%	54%	34%	2%	2.76	2%	15%	48%	32%	3%	2.98	0.22
論理的思考力	2%	14%	49%	33%	1%	2.83	2%	17%	47%	32%	1%	3.02	0.19
プレゼン力	1%	8%	41%	46%	3%	2.58	3%	15%	38%	41%	3%	2.90	0.32
創造的解決力	1%	9%	50%	38%	3%	2.67	2%	16%	52%	29%	1%	3.00	0.33
創発力	3%	24%	38%	34%	1%	2.94	3%	22%	45%	29%	0%	3.15	0.21
社会参画力	0%	9%	58%	30%	3%	2.74	4%	12%	56%	29%	2%	2.90	0.16
自己評価力	2%	19%	49%	27%	3%	2.90	4%	18%	50%	27%	1%	3.10	0.20
自己変容力	2%	16%	53%	29%	0%	2.89	4%	19%	48%	28%	1%	3.15	0.25

関係資料④：探究PFIIAに関する調査結果等

表④-1 科学英語プレゼンテーション研修 実施前後のルーブリック評価結果の比較  
（5段階で数値が高いほど高評価） 令和6年度入学生 N=80

	英語プレゼン研修 実施前						英語プレゼン研修 実施後						実施後 一実施前	仮説	R7 実施前	R7 実施後
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均				
課題発見力	0%	20%	61%	20%	0%	3.0	2%	46%	46%	5%	0%	3.5	0.5		◎	◎
情報収集力	0%	27%	41%	32%	0%	3.0	7%	44%	39%	10%	0%	3.5	0.5		○	◎
情報分析力	2%	17%	59%	22%	0%	3.0	7%	32%	54%	7%	0%	3.4	0.4		○	◎
論理的思考力	5%	12%	44%	39%	0%	2.8	7%	29%	54%	10%	0%	3.4	0.6		○	◎
プレゼンテーション力	2%	12%	46%	34%	5%	2.7	7%	34%	49%	10%	0%	3.4	0.7	◎	○	◎
創造的解決力	0%	12%	46%	41%	0%	2.7	7%	22%	54%	17%	0%	3.2	0.5			◎
創発力	0%	24%	49%	27%	1%	3.0	12%	27%	59%	2%	0%	3.5	0.5		○	◎
社会参画力	0%	20%	56%	24%	0%	2.9	7%	29%	54%	10%	0%	3.3	0.4		○	◎
自己評価力	2%	27%	56%	12%	2%	3.1	12%	51%	32%	5%	0%	3.7	0.6		◎	◎
自己変容力	0%	20%	54%	27%	0%	2.9	12%	32%	49%	7%	0%	3.5	0.6		○	◎

◎・・・5・4・3の割合が80%以上の項目 ○・・・5・4・3の割合が60%以上の項目

関係資料⑤：探究PFIIBに関する調査結果等

表⑤-1 大学セミナー ルーブック評価結果

(5段階で数値が高いほど高評価) 令和6年度入学生 N=312 令和7年度入学生 N=297

	令和6年度入学生						令和7年度入学生						仮説	R6 結果	R7 結果
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均			
課題発見力	1%	16%	61%	22%	0%	2.96	1%	14%	63%	21%	1%	2.93	◎	○	○
情報収集力	0%	27%	47%	26%	1%	3.02	2%	26%	52%	20%	0%	3.09	◎	○	◎
情報分析力	0%	13%	48%	38%	1%	2.70	1%	10%	61%	26%	1%	2.85	○	○	○
論理的思考力	0%	18%	53%	29%	1%	2.90	2%	16%	52%	29%	1%	2.89	○	○	○
プレゼン力	0%	12%	53%	34%	1%	2.76	2%	9%	55%	31%	2%	2.78	○	○	○
創造的解決力	1%	16%	55%	27%	1%	2.89	1%	13%	52%	32%	1%	2.81	○	○	○
創発力	5%	29%	42%	23%	1%	3.14	5%	25%	39%	29%	1%	3.04	○	○	○
社会参画力	0%	16%	59%	24%	1%	2.29	1%	14%	54%	28%	2%	2.87	◎	○	○
自己評価力	0%	26%	49%	23%	1%	2.98	1%	20%	54%	24%	1%	2.95	○	○	○
自己変容力	1%	29%	45%	23%	1%	2.56	3%	17%	54%	25%	2%	2.94	○	○	○

◎：その事業が能力の向上に強く寄与と思われるもの

○：その事業が能力の向上に寄与と思われるもの

◎：レベル3以上が全体の80%以上と定義

○：レベル3以上が全体の60%以上と定義

関係資料⑥：探究PFIICに関する調査結果等

表⑥-1 令和5年度入学生と令和6年度入学生 2年生家政科1月アンケート結果の比較

(4段階で数値が高いほど高評価) 令和5年度入学生 N=31 令和6年度入学生 N=32

	令和5年度入学生					令和6年度入学生				
	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均
科学への興味・関心	30%	70%	0%	0%	3.3	23%	73%	3%	0%	3.1
生活科学への興味・関心	37%	63%	0%	0%	3.4	17%	80%	3%	0%	3.1
問題解決のための発想力	30%	67%	3%	0%	3.2	13%	80%	7%	0%	2.9
自然科学の知識や理解	33%	63%	3%	0%	3.2	17%	77%	7%	0%	3.0
科学的に判断しようとする姿勢	17%	80%	3%	0%	3.1	10%	63%	27%	0%	2.3
根拠に基づいて説明する力	23%	67%	10%	0%	2.9	10%	70%	20%	0%	2.5
社会と関わろうとする姿勢	30%	60%	10%	0%	3.0	20%	77%	3%	0%	3.1
課題研究の着眼点	33%	53%	13%	0%	2.9	27%	63%	10%	0%	3.0

関係資料⑦：他校、海外等との交流・連携に関する調査結果等

表⑦-1 ネクストジェネレーション・ミーティング ルーブック評価結果

(5段階で数値が高いほど高評価) 令和6年度入学生 N=80 令和7年度入学生 N=82

	令和6年度入学生						令和7年度入学生						仮説	R6 結果	R7 結果
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均			
課題発見力	4%	33%	55%	6%	1%	3.32	3%	30%	52%	15%	0%	3.20	◎	◎	◎
情報収集力	8%	41%	42%	9%	0%	3.47	3%	29%	52%	16%	0%	3.18	◎	◎	◎
情報分析力	3%	10%	71%	14%	3%	2.96	0%	24%	54%	22%	0%	3.03	◎	◎	○
論理的思考力	5%	27%	49%	18%	1%	3.17	4%	27%	51%	19%	0%	3.15	◎	◎	◎
プレゼン力	5%	9%	50%	31%	5%	2.78	3%	14%	53%	24%	6%	2.82	◎	○	○
創造的解決力	5%	17%	44%	31%	4%	2.88	3%	20%	51%	24%	3%	2.96	○	○	○
創発力	13%	41%	23%	23%	0%	3.44	8%	32%	46%	15%	0%	3.32	○	○	◎
社会参画力	0%	18%	68%	12%	3%	3.01	6%	20%	63%	16%	0%	3.04	◎	◎	◎
自己評価力	4%	31%	47%	15%	3%	3.18	6%	34%	38%	18%	4%	3.22	◎	◎	○
自己変容力	8%	29%	45%	14%	4%	3.23	8%	29%	49%	13%	1%	3.29	◎	◎	◎

◎：その事業が能力の向上に強く寄与と思われるもの

○：その事業が能力の向上に寄与と思われるもの

◎：レベル3以上が全体の80%以上と定義

○：レベル3以上が全体の60%以上と定義

関係資料⑧：「思考を深める問い」ワークシートについて

本校では、教科の特性上「問い」に縛ってしまうと、ワークシートの作成が難しいものもあると考え、全教科・科目での全校体制での実施を優先し、現段階では、「発問」も含めて「問い」として運用している。また、「思考を深める問い」は、最終的に生徒自身が「問い」を見出すための初期の仕掛け、教員の意識改革、通常の授業と探究との接続を目的に実践している。

また、ネットワーク上のデータベースに加え、冊子も行うことで、教員の積極的な活用につなげるようにしている。

学年・実施時期  年  月 教科・科目 授業担当者

単元

発問する場面

思考を深める問い

ルーブリックとの関連（関連がありそうな指標をすべて○で囲んでください）

課題発見力・情報収集力 **情報分析力**・**論理的思考力**・プレゼンテーション力  
創造的解決力・創発力・社会参画力・自己評価力・自己変容力

ねらい・効果

等差数列の和は、初項と第n項の和、第2項と第n-1項の和、…がすべて等しいので台形の面積公式のようなやり方で求めることができるが、等比数列の和を等差数列と同じように行くと、和が等しくならないので、うまくいかないことに気づかせ、どうやればその問題が解決するかを考えさせる。仕組みを理解させた上で、等式の辺々を加えるときに、同じものを打ち消し合わせる計算方法の習得につなげる。

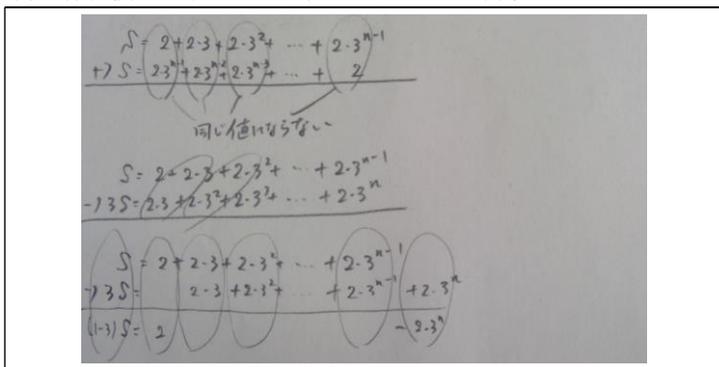
生徒の反応（いずれかに○をつけ、追加で説明が必要があれば記入）

思考がよく深まった（○） 思考が少し深まった（○） 深まらなかった（○）

（追加説明）

辺々を加えて、打ち消し合わせる計算方法や項の次数をそろえることで計算がしやすくなることに自分で気づく生徒が出た。

添付資料等（図や写真、URLなど参考になるものがあれば添付）



科目・テーマ・ワークシート作成者
0101現代の国語「『美しさ』の発見について」( )
0102現代の国語「安くておいしい国」( )
0103現代の国語「言葉についての新しい認識」( )
0104言語文化「奥山に、猫またといふものありて」( )
0105言語文化「古典文法基礎知識」( )
0106言語文化「古典文法の活用」( )
0107論理国語「スポーツとナショナリズム」( )
0108古典探究「花山院の出家」( )
0109現代文B「小説『舞姫』」( )
0110現代文B「夏目漱石『こころ』裁判」( )
0201新課程数学I「数と式」( )
0202新課程数学II「三角関数」( )
0203新課程数学B「数列」( )
0204新課程数学B「数列」( )
0205新課程数学C「平面ベクトル」( )

図⑧-1 冊子化した事例集の目次例

図⑧-2 「思考を深める問い」ワークシートの一例

関係資料⑨：ルーブリック評価について

表⑨-1 令和5年度入学生（文理探究科）ルーブリック評価の推移（詳細）

（5段階で数値が高いほど高評価）令和5年度入学生 N=80

文理探究科

	課題発見力					情報収集力					情報分析力					論理的思考力					プレゼン力					創造的解決力					
	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	
5	4%	8%	1%	3%	10%	1%	12%	5%	15%	20%	5%	6%	4%	5%	9%	4%	9%	4%	9%	14%	3%	12%	3%	8%	17%	3%	3%	0%	2%	9%	
4	30%	36%	31%	36%	45%	44%	49%	39%	45%	59%	20%	32%	11%	30%	33%	30%	29%	35%	44%	42%	14%	23%	9%	24%	41%	20%	29%	14%	29%	38%	
3	58%	49%	45%	53%	42%	48%	33%	42%	33%	16%	65%	44%	66%	58%	54%	62%	55%	49%	38%	42%	63%	44%	53%	53%	35%	57%	53%	68%	52%	46%	
2	8%	6%	23%	8%	3%	6%	5%	14%	6%	4%	10%	18%	18%	8%	4%	4%	5%	9%	9%	1%	20%	22%	31%	14%	7%	20%	14%	19%	18%	7%	
1	0%	1%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	1%	3%	0%	0%	0%	0%	4%	2%	0%	0%	1%	0%	0%	0%
平均	3.3	3.4	3.1	3.3	3.6	3.4	3.6	3.4	3.7	4.0	3.2	3.3	3.0	3.3	3.5	3.3	3.4	3.3	3.5	3.7	3.0	3.2	2.8	3.2	3.7	3.1	3.2	2.9	3.1	3.5	

	創発力					社会参画力					自己評価力					自己変容力					平均				
	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目
6%	12%	9%	11%	23%	5%	4%	0%	3%	9%	4%	5%	7%	12%	20%	4%	8%	5%	8%	16%	4%	8%	4%	7%	15%	
34%	37%	32%	47%	46%	20%	28%	18%	23%	26%	34%	40%	39%	45%	35%	24%	32%	28%	38%	49%	27%	34%	26%	36%	41%	
52%	35%	45%	36%	23%	65%	54%	66%	56%	58%	52%	47%	42%	32%	41%	62%	44%	49%	41%	29%	58%	46%	52%	45%	39%	
8%	14%	12%	6%	7%	10%	13%	14%	15%	6%	10%	5%	11%	9%	3%	10%	15%	16%	14%	4%	11%	12%	17%	11%	5%	
0%	3%	1%	0%	0%	0%	1%	3%	3%	1%	0%	3%	1%	2%	1%	0%	1%	1%	0%	1%	0%	1%	1%	1%	0%	
3.4	3.4	3.4	3.6	3.9	3.2	3.2	3.0	3.1	3.3	3.3	3.4	3.4	3.6	3.7	3.2	3.3	3.2	3.4	3.7	3.2	3.3	3.1	3.4	3.7	

表⑨-2 令和5年度入学生（普通科） ルーブリック評価の推移（詳細）

（5段階で数値が高いほど高評価）令和5年度入学生 N=181

普通科

	課題発見力					情報収集力					情報分析力					論理的思考力					プレゼン力					創造的解決力				
	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目
5	2%	1%	0%	1%	2%	8%	2%	1%	3%	7%	4%	1%	1%	1%	5%	4%	1%	0%	2%	3%	4%	1%	0%	1%	7%	4%	1%	1%	4%	1%
4	28%	16%	24%	38%	35%	29%	28%	25%	37%	50%	19%	13%	6%	22%	21%	23%	15%	11%	27%	35%	15%	10%	7%	12%	26%	24%	14%	17%	22%	26%
3	55%	58%	54%	46%	50%	43%	48%	50%	46%	32%	50%	49%	54%	56%	53%	45%	55%	55%	56%	46%	42%	38%	50%	56%	52%	54%	45%	54%	49%	49%
2	15%	25%	22%	15%	14%	21%	22%	25%	15%	11%	25%	36%	36%	21%	20%	26%	26%	34%	15%	14%	36%	48%	36%	27%	13%	19%	29%	37%	19%	23%
1	1%	1%	1%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	1%	1%	2%	3%	0%	2%	1%	3%	1%	0%	2%	3%	4%	7%	5%	2%	0%	3%	1%	2%	2%
平均	3.1	2.9	3.0	3.3	3.2	3.2	3.1	3.0	3.3	3.5	3.0	2.7	2.6	3.0	3.1	3.0	2.9	2.8	3.2	3.2	2.8	2.5	2.6	2.8	3.2	3.1	2.8	2.8	3.1	3.0

創発力					社会参画力					自己評価力					自己変容力					平均				
1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目
6%	2%	3%	8%	11%	5%	1%	1%	3%	5%	8%	1%	1%	5%	5%	6%	2%	1%	4%	6%	5%	1%	1%	3%	5%
26%	20%	27%	32%	35%	18%	10%	11%	21%	17%	28%	22%	21%	27%	41%	24%	20%	19%	23%	35%	23%	17%	17%	26%	32%
43%	41%	44%	42%	36%	54%	55%	60%	56%	58%	44%	54%	52%	54%	40%	52%	54%	54%	57%	45%	48%	51%	52%	52%	46%
23%	36%	24%	17%	16%	23%	30%	27%	19%	17%	18%	20%	24%	13%	11%	17%	23%	25%	14%	14%	22%	30%	29%	17%	15%
1%	1%	2%	1%	2%	0%	4%	1%	1%	4%	2%	3%	2%	1%	2%	1%	1%	1%	2%	1%	1%	2%	2%	1%	2%
3.1	2.9	3.1	3.3	3.4	3.0	2.7	2.8	3.0	3.0	3.2	3.0	3.0	3.2	3.4	3.2	3.0	3.0	3.1	3.3	3.1	2.9	2.9	3.1	3.2

表⑨-3 令和5年度入学生（文理探究科・普通科） ルーブリック評価の平均の推移

（5段階で数値が高いほど高評価）令和5年度入学生 文理探究科 N=80 普通科 N=181

	学科	1年1回目	1年2回目	2年1回目	2年2回目	3年1回目	上昇
		課題発見力	文理 3.3	3.4	3.1	3.3	3.6
	普通 3.1	2.9	3.0	3.3	3.2	0.1	
情報収集力	文理 3.4	3.6	3.4	3.7	4.0	0.6 ↑	
	普通 3.2	3.1	3.0	3.3	3.5	0.3 ↑	
情報分析力	文理 3.2	3.3	3.0	3.3	3.5	0.3 ↑	
	普通 3.0	2.7	2.6	3.0	3.1	0.1	
論理的思考力	文理 3.3	3.4	3.3	3.5	3.7	0.4 ↑	
	普通 3.0	2.9	2.8	3.2	3.2	0.2 ↑	
プレゼンテーション力	文理 3.0	3.2	2.8	3.2	3.7	0.7 ↑	
	普通 2.8	2.5	2.6	2.8	3.2	0.4 ↑	
創造的解決力	文理 3.1	3.2	2.9	3.1	3.5	0.4 ↑	
	普通 3.1	2.8	2.8	3.1	3.0	-0.1	
創発力	文理 3.4	3.4	3.4	3.6	3.9	0.5 ↑	
	普通 3.1	2.9	3.1	3.3	3.4	0.3 ↑	
社会参画力	文理 3.2	3.2	3.0	3.1	3.3	0.1 ↑	
	普通 3.0	2.7	2.8	3.0	3.0	-0.0	
自己評価力	文理 3.3	3.4	3.4	3.6	3.7	0.4 ↑	
	普通 3.2	3.0	3.0	3.2	3.4	0.2 ↑	
自己変容力	文理 3.2	3.3	3.2	3.4	3.7	0.5 ↑	
	普通 3.2	3.0	3.0	3.1	3.3	0.2 ↑	
平均	文理 3.2	3.3	3.1	3.4	3.7	0.4 ↑	
	普通 3.1	2.9	2.9	3.1	3.2	0.2 ↑	

表⑨-4 SSHの取組の効果の推移（現3年生）表中の値は、「大変増した」「やや増した」「もともと高かった」と回答したものの割合

文理探究科 N=80 普通科 N=181 家政科 N=31

	文理			普通			家政		
	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
科学に関する興味関心	90%	90%	94%	60%	69%	78%	45%	85%	79%
科学技術関する学習意欲	82%	84%	84%	53%	59%	69%	45%	73%	71%
未知の事柄への興味	94%	88%	99%	85%	85%	89%	86%	91%	93%
科学技術・理科・数学理論原理への興味	82%	80%	84%	47%	56%	55%	48%	52%	43%
観測や観察への興味	91%	90%	94%	67%	75%	81%	83%	73%	82%
学んだことを応用することへの興味	85%	90%	91%	58%	74%	81%	55%	76%	93%
社会で科学技術を正しく用いる姿勢	67%	76%	84%	47%	64%	69%	48%	67%	64%
自分から取組む姿勢	90%	96%	94%	75%	84%	86%	86%	85%	89%
周囲と協力して取組む姿勢	86%	92%	91%	80%	81%	85%	93%	85%	89%
粘り強く取組む姿勢	76%	88%	91%	67%	84%	88%	72%	82%	93%
独自のものを創り出そうとする姿勢	64%	82%	88%	52%	73%	78%	59%	79%	89%
発見する力	91%	92%	94%	73%	77%	84%	72%	73%	89%
問題を解決する力	91%	96%	94%	68%	83%	84%	62%	73%	96%
真実を探って明らかにしたい気持ち	87%	92%	90%	73%	82%	81%	66%	82%	89%
考える力	90%	94%	97%	78%	81%	89%	76%	85%	86%
成果を発表する力	83%	94%	93%	47%	74%	85%	45%	88%	89%
英語で発表する力	41%	70%	76%	13%	34%	25%	24%	30%	36%
国際性	56%	76%	75%	18%	38%	35%	24%	36%	32%

関係資料⑩：評価とカリキュラム・マネジメントに関する調査結果等

表⑩-1 通常授業におけるルーブリック評価の実施結果（一部のクラスにおける先行実施）

歴史総合	5	4	3	2	1
課題発見力	0%	23%	46%	31%	0%
情報収集力	8%	49%	28%	15%	0%
情報分析力	5%	21%	41%	33%	0%
論理的思考力	5%	21%	49%	26%	0%
プレゼンテーション力	8%	38%	41%	13%	0%
創造的解決力	3%	5%	54%	36%	3%
創発力	10%	41%	36%	13%	0%
社会参画力	3%	5%	21%	69%	3%
自己評価力	5%	23%	49%	23%	0%
自己変容力	8%	15%	56%	18%	3%

保健	5	4	3	2	1
課題発見力	0%	23%	46%	31%	0%
情報収集力	8%	49%	28%	15%	0%
情報分析力	5%	21%	41%	33%	0%
論理的思考力	5%	21%	49%	26%	0%
プレゼンテーション力	8%	38%	41%	13%	0%
創造的解決力	3%	5%	54%	36%	3%
創発力	10%	41%	36%	13%	0%
社会参画力	3%	5%	21%	69%	3%
自己評価力	5%	23%	49%	23%	0%
自己変容力	8%	15%	56%	18%	3%

論理国語	5	4	3	2	1
課題発見力	3%	31%	50%	17%	0%
情報収集力	8%	33%	42%	14%	3%
情報分析力	6%	19%	50%	22%	3%
論理的思考力	6%	17%	39%	39%	0%
プレゼンテーション力	8%	14%	53%	25%	0%
創造的解決力	3%	8%	67%	22%	0%
創発力	8%	42%	36%	11%	3%
社会参画力	6%	8%	47%	33%	6%
自己評価力	6%	14%	56%	22%	3%
自己変容力	6%	33%	44%	14%	3%

数学	5	4	3	2	1
課題発見力	9%	29%	41%	15%	6%
情報収集力	12%	38%	26%	18%	6%
情報分析力	15%	29%	41%	12%	3%
論理的思考力	3%	26%	53%	15%	3%
プレゼンテーション力	9%	29%	21%	29%	12%
創造的解決力	9%	26%	41%	18%	6%
創発力	29%	21%	38%	3%	9%
社会参画力	6%	29%	29%	21%	15%
自己評価力	3%	38%	29%	21%	9%
自己変容力	9%	41%	26%	12%	12%

音楽Ⅰ	5	4	3	2	1
課題発見力	14%	34%	34%	11%	6%
情報収集力	9%	49%	31%	9%	3%
情報分析力	11%	23%	49%	17%	0%
論理的思考力	6%	34%	40%	14%	6%
プレゼンテーション力	9%	26%	40%	23%	3%
創造的解決力	20%	23%	43%	9%	6%
創発力	23%	34%	23%	20%	0%
社会参画力	9%	17%	43%	29%	3%
自己評価力	20%	40%	31%	9%	0%
自己変容力	20%	31%	40%	9%	0%

化学	5	4	3	2	1
課題発見力	6%	39%	36%	14%	6%
情報収集力	19%	44%	25%	8%	3%
情報分析力	17%	33%	42%	6%	3%
論理的思考力	6%	28%	47%	11%	8%
プレゼンテーション力	3%	28%	44%	11%	14%
創造的解決力	3%	33%	47%	17%	0%
創発力	22%	42%	22%	14%	0%
社会参画力	3%	22%	36%	28%	11%
自己評価力	8%	28%	56%	8%	0%
自己変容力	6%	44%	42%	8%	0%

家庭総合	5	4	3	2	1
課題発見力	0%	47%	42%	11%	0%
情報収集力	19%	47%	28%	6%	0%
情報分析力	6%	14%	64%	14%	3%
論理的思考力	0%	28%	56%	17%	0%
プレゼンテーション力	3%	19%	47%	28%	3%
創造的解決力	0%	25%	61%	14%	0%
創発力	8%	47%	42%	3%	0%
社会参画力	0%	17%	69%	14%	0%
自己評価力	6%	31%	56%	8%	0%
自己変容力	6%	33%	56%	6%	0%

物理	5	4	3	2	1
課題発見力	17%	44%	31%	6%	3%
情報収集力	11%	42%	36%	11%	0%
情報分析力	19%	44%	19%	17%	0%
論理的思考力	25%	36%	19%	14%	6%
プレゼンテーション力	17%	28%	36%	14%	6%
創造的解決力	11%	36%	36%	14%	3%
創発力	22%	42%	28%	6%	3%
社会参画力	6%	22%	25%	33%	14%
自己評価力	14%	31%	39%	6%	11%
自己変容力	14%	44%	28%	6%	8%

総合英語	5	4	3	2	1
課題発見力	7%	27%	37%	29%	0%
情報収集力	7%	34%	34%	22%	2%
情報分析力	2%	12%	46%	37%	2%
論理的思考力	5%	2%	46%	44%	2%
プレゼンテーション力	15%	46%	34%	5%	0%
創造的解決力	12%	12%	51%	24%	0%
創発力	15%	29%	46%	10%	0%
社会参画力	0%	12%	34%	54%	0%
自己評価力	5%	24%	39%	29%	2%
自己変容力	7%	37%	41%	15%	0%

関係資料⑪：研究開発教材一覧

教材等名	学校ホームページへの掲載状況	備考
第Ⅱ期 SSH ルーブリック	<a href="https://www.news.ed.jp/omura-h/ssh/ssh-kaihatsukyousei/05rubric/kaihatsu0501rubric.pdf">https://www.news.ed.jp/omura-h/ssh/ssh-kaihatsukyousei/05rubric/kaihatsu0501rubric.pdf</a>	令和5年度に第Ⅱ期版として改編を行った。
各プログラムの実施要項	<a href="https://www.news.ed.jp/omura-h/ssh/SSH2nd-3kennkyuukaihatu.html">https://www.news.ed.jp/omura-h/ssh/SSH2nd-3kennkyuukaihatu.html</a>	令和6年度から授業用資料等も含め、公開を開始。
探究活動用冊子	<a href="https://www.news.ed.jp/omura-h/ssh/SSH2nd-3kennkyuukaihatu.html">https://www.news.ed.jp/omura-h/ssh/SSH2nd-3kennkyuukaihatu.html</a>	令和5年度に作成し、毎年改訂を重ねている。
学校設定科目「OMURA STEAM LABO」事例集	<a href="https://www.news.ed.jp/omura-h/ssh/SSH2nd-3kennkyuukaihatu.html">https://www.news.ed.jp/omura-h/ssh/SSH2nd-3kennkyuukaihatu.html</a>	令和5年度から研究開発を開始。
学校設定科目「サイエンス基礎」事例集	<a href="https://www.news.ed.jp/omura-h/ssh/SSH2nd-3kennkyuukaihatu.html">https://www.news.ed.jp/omura-h/ssh/SSH2nd-3kennkyuukaihatu.html</a>	第Ⅰ期から作成しており、毎年改訂を重ねている。
SSH 卒業生関連	<a href="https://www.news.ed.jp/omura-h/ssh/SSH2nd-6sotsugyousei.html">https://www.news.ed.jp/omura-h/ssh/SSH2nd-6sotsugyousei.html</a>	令和4年度から卒業生の協力を得ながら実施。
Science Journal for Youths, Nagasaki 若者たちの科学雑誌	<a href="https://nagasaki-w-ssh.sakura.ne.jp/nishi/sjyn/">https://nagasaki-w-ssh.sakura.ne.jp/nishi/sjyn/</a>	令和6年度から長崎西高等学校と共同運営するオンラインジャーナル

教育課程表（令和7年度実施分）

文理探究科			普通科			家政科		
教科	科目名	標準単位	1年		2年		3年	
			文系	理系	文系	理系	文系	理系
国語	現代語文	2	2	2	2	2	2	2
	論語文	2	2	2	2	2	2	2
	国語	4	4	4	4	4	4	4
	国語	4	4	4	4	4	4	4
	国語	4	4	4	4	4	4	4
	国語	4	4	4	4	4	4	4
	国語	4	4	4	4	4	4	4
	国語	4	4	4	4	4	4	4
	国語	4	4	4	4	4	4	4
	国語	4	4	4	4	4	4	4
地歴	地理	2	2	2	2	2	2	2
	歴史	2	2	2	2	2	2	2
	地理	2	2	2	2	2	2	2
	歴史	2	2	2	2	2	2	2
	地理	2	2	2	2	2	2	2
	歴史	2	2	2	2	2	2	2
	地理	2	2	2	2	2	2	2
	歴史	2	2	2	2	2	2	2
	地理	2	2	2	2	2	2	2
	歴史	2	2	2	2	2	2	2
公民	政治	2	2	2	2	2	2	2
	経済	2	2	2	2	2	2	2
	政治	2	2	2	2	2	2	2
	経済	2	2	2	2	2	2	2
	政治	2	2	2	2	2	2	2
	経済	2	2	2	2	2	2	2
	政治	2	2	2	2	2	2	2
	経済	2	2	2	2	2	2	2
	政治	2	2	2	2	2	2	2
	経済	2	2	2	2	2	2	2
数学	算数	3	3	3	3	3	3	3
	代数	3	3	3	3	3	3	3
	幾何	3	3	3	3	3	3	3
	統計	3	3	3	3	3	3	3
	算数	3	3	3	3	3	3	3
	代数	3	3	3	3	3	3	3
	幾何	3	3	3	3	3	3	3
	統計	3	3	3	3	3	3	3
	算数	3	3	3	3	3	3	3
	代数	3	3	3	3	3	3	3
理科	物理	2	2	2	2	2	2	2
	化学	2	2	2	2	2	2	2
	生物	2	2	2	2	2	2	2
	物理	2	2	2	2	2	2	2
	化学	2	2	2	2	2	2	2
	生物	2	2	2	2	2	2	2
	物理	2	2	2	2	2	2	2
	化学	2	2	2	2	2	2	2
	生物	2	2	2	2	2	2	2
	物理	2	2	2	2	2	2	2
家庭	生活	2	2	2	2	2	2	2
	職業	2	2	2	2	2	2	2
	生活	2	2	2	2	2	2	2
	職業	2	2	2	2	2	2	2
	生活	2	2	2	2	2	2	2
	職業	2	2	2	2	2	2	2
	生活	2	2	2	2	2	2	2
	職業	2	2	2	2	2	2	2
	生活	2	2	2	2	2	2	2
	職業	2	2	2	2	2	2	2



### 研究開発題目

## 『教科横断型課題探究プログラムと評価・指導法のSHINKAIによる科学技術人材育成方法の開発』

※SHINKAIには、① 芯化…SSH事業を本校の探究活動の芯（軸）に据える ② 進化…第Ⅰ期の内容を更に進化させる  
 ③ 深化…第Ⅰ期の内容を更に深化させる ④ 真化…第Ⅰ期の内容に真の価値をもたせる  
 の4つの意味を込めている。

### 研究開発の土台となる仮説

#### 研究開発の【仮説1】

自然・地域+「社会課題」を多角的に探究

学校設定科目  
 「サイエンス基礎」  
 「OMURA STEAM LABO」  
 の開発

情報分析力育成プログラムの開発

科学的探究力・科学への興味関心 向上

#### 研究開発の【仮説2】

「多様」な他者との協働探究

大村高校探究活動コンソーシアムの構築

県内SSH校+県外SSH校・海外校との連携プログラムの開発

科学的探究力・協働実践力 向上

#### 研究開発の【仮説3】

「真正の評価」の継続的改善・検証

・アンケート  
 ・ポートフォリオ評価  
 ・パフォーマンス評価  
 による「真正の評価」の開発

カリキュラム・マネジメントの開発

生徒のメタ認知力・教員の指導力 向上

### 育成を目指す人間像

高度な科学的思考力と豊かな発想力を持ち、新たな解の創発に向けて行動する人間

未来を切り開くために大村高校が育成する10の力



真化

【研究開発推進上の要点】  
 誰一人取り残さない  
 「全職員での指導」で、「地域・他校等との協働」で、ボリュームゾーンの生徒へのアプローチに加え、生徒のプルアップ、ボトムアップにも適切なサポートを実践



#### 拡充・発展

1年  
 ・サイエンス基礎 (文理探究科：1単位)  
 対象：1期1クラス→2期2クラス  
 ・探究プラットフォームⅠ (全学科：1単位)

2年  
 ・探究プラットフォームⅡA/ⅡB/ⅡC (文理探究科・普通科：2単位) (家政科：1単位)

3年  
 ・探究プラットフォームⅡA/ⅡB/ⅡC (全学科：1単位)

事業内容  
 ・各事業とルーブリックの評価指標の関連についての分析強化  
 ・HPへの教材・事業実施要領等の掲載による探究活動の普及  
 ・県内SSH校等との連携事業  
 Science Colloquium for All Nagasaki  
 未来デザインイノベーションフェア

#### 新規

1年  
 ・パフォーマンス評価 (文理探究科「サイエンス基礎」で実施)  
 ・学校設定科目 (文理探究科：1単位) 「OMURA STEAM LABO」  
 ・ネクストジェネレーション・ミーティング (文理探究科)  
 【東京学芸大学附属国際中等教育学校・筑波大学附属駒場高等学校との共同研修】  
 ・留学生交流研修 (文理探究科)  
 ・探究プラットフォームⅠにおける大高探究ビルディング (全学科) 情報分析力育成講座 (全学科)

2年  
 ・留学生交流研修 (文理探究科)  
 ・シンガポール・マレーシア研修 (文理探究科)

2・3年  
 ・広大附属高校との連携 (普通科・家政科)  
 ・大村高校探究活動コンソーシアム (全学科)

### 深化

課題探究における到達目標（ルーブリック）

	要素	定義	到達度				
			レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
科学的探究力	課題発見力	身の回りの自然や事象に関心や疑問を持ち、課題や不思議を見出し、それを探究テーマとして設定する力	疑問や不思議に気づいたり、検証可能な形でテーマ設定をしたりすることがほとんどできない	助言を参考にしながら、課題を見出し、検証可能な形でテーマ設定ができる	自ら課題を見出し、検証可能な形でテーマ設定ができ、実行可能な計画をある程度立てることができる	自ら独創的な課題を見出し、検証可能な形でテーマを設定し、実行可能な複数の手法あるいは最適な手法を考えることができる	④よりさらにできる
	科学リテラシー	【情報収集力】：必要な情報や知識を収集し自らの探究に活用する力	必要な情報収集ができず、集めた情報とテーマとの関係性を見出せない	必要な情報や知識を書籍や論文、インターネット等から集めることができる	情報の信頼性を評価したり、複数の手法（情報収集手段）の中から適した方法を選択したりすることができる	信頼できる複数の情報を組み合わせ、仮説や課題の検証に用いることができる	④よりさらにできる
		【情報分析力】：収集した情報を科学的な視点をもとに分析する（情報を図や表でも表現し、そこから要素を明らかにする）力	収集した情報を科学的な視点をもとに上手く分析することができない	指導・助言を参考にしながら収集した情報を科学的な視点をもとに分析することができる	収集した情報を複数の分析方法の中から適した方法を自ら選択し、科学的な視点をもとに分析することができる	既存の分析方法だけではなく、科学的な根拠を組み込んだ独自の分析方法を導出し、それをもとに分析することができる	④よりさらにできる
		【論理的思考力】：仮説を設定する力、結果をもとに妥当な結論や新たな仮説を導く力	助言や説明を受けても、データ処理等の調査結果や実験結果から、論理的な仮説や結論を導くことが上手にできない	助言によりデータ処理等の調査結果や実験結果から、論理的に妥当な仮説や結論を導くことができる	自らデータ処理等の調査結果や実験結果から、論理的に妥当な仮説や結論を導くことができる	自らデータ処理等の調査結果や実験結果を複合的に用いて、論理的に妥当な仮説や結論を導き、更に新たな仮説を洞察することができる	④よりさらにできる
		【プレゼンテーション力】：研究の目的や過程、結論をわかりやすく効果的に他者に伝える力	要求された内容のポスターを作成することができていなかったり、メモに頼らなければ説明したりすることができない	ひと通り要求された内容のポスターを作成することができ、不十分ながらも内容を理解した上でメモに頼らず説明することができる	特定の対象に対してはある程度、ストーリー性や説得力のある説明ができ、質問に対しても答えることができる	相手や場面に応じて適切なプレゼンテーション（英語含む）ができ、質問に対してもその意図を汲んで柔軟で的確な応答ができる	④よりさらにできる
		【創造的解決力】：課題意識を持ち続け、日常や教科等の学びを横断的に応用し、試行錯誤を粘り強く続けることで、ひらめきや着想を得て、それを元に解決策を見出す力	課題意識に不足し、教科横断的な思考や試行錯誤をすることができない	課題意識を持ち、教科等の学びを横断的に応用し、試行錯誤を行うことができる	課題意識を持ち、教科等の学びを横断的に応用し、試行錯誤を粘り強く行う中で、ひらめきや着想を得ることができる	課題意識を持ち、教科等の学びを横断的に応用し、試行錯誤を粘り強く行う中で、ひらめきや着想を得、それを元にエレガントな解決策を見出すことができる	④よりさらにできる
協働実践力	創発力	他者との協働により単独ではなしえなかった新たな解を創造していく力	アイデアを交換するのを躊躇したり、自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しい	互いのアイデアを尊重した上で、その要点を理解することができる	班のメンバーに留まらず、広く助言者のアイデアを尊重しつつ取り入れ、探究の質を高めることができる	他者と協働することで一人では気づかなかった新たな考えを生み出すことができるとともに、誰がそのアイデアの真の発案者だったかを念頭にそれを尊重できる	④よりさらにできる
	社会参画力	自らの探究を社会の中に位置づけ、積極的に社会に貢献し、公共の福祉を実現しようとする姿勢・力	自身の探究の社会的意義を見出すことが上手くできず、他者との協働に必要な計画性が不足する	説明を受けることで、自身の探究の社会的意義を理解することができ、計画的に進めることができる	自ら、自身の探究の社会的意義を理解し、他者と調整しながら計画的に進めることができる	自ら、自身の探究の社会的意義を深く理解し、その公共の福祉の実現のため、利害関係者（ステークホルダー）全体を俯瞰し、その調整を図り、実際の行動に移すことができる	④よりさらにできる
メタ認知力	自己評価力	自らの思考や行動を、目的・目標に照らして客観的・多面的に把握、評価する力	思い込みや特定の場面をもとにした一面的な評価の傾向が強く、客観的な自己評価が難しい（自己評価が不当に低いこともここに含む）	助言や他者評価をもとに、自己の思考や行動を、目的・目標に照らして多面的に捉え、自己評価にいかすことができる	自ら目的・目標に照らした多面的な自己評価ができるとともに、他者評価とのズレを理解・納得することができる	目的・目標に照らして、多面的な自己評価や他者評価が適切にでき、それらをもとに、自らをより一層高めるための適切な到達目標を設定できる	④よりさらにできる
	自己変容力	自らの目的・目標に照らして自分の思考や行動を評価し、より望ましい方向に進もうとする力	助言を受けても目的・目標を考えることができず、自分の現在の状況を客観的に把握することが難しい	助言により、目的・目標を設定でき、それに照らしながら自分の現在の状況がある程度客観的に把握することができ、進む方向を考えることができる	自ら目的・目標に照らして自分の現在の状況をしっかりと把握することができ、助言をもとに、自己実現に必要な具体的方策を考えることができる	自ら目的・目標に照らし自分の現在の状況を客観的・多面的に把握しており、自己実現に必要な行動に計画的かつ継続的に粘り強く取り組むことができる	④よりさらにできる

評価マトリックス（仮説） ※プラットフォーム（実施計画書内以下、「PF」と記載）

SSH 事業			科学的探究力					協働実践力		メタ認知力			
			① 課題発見力	科学リテラシー					⑦ 創発力	⑧ 社会参画力	⑨ 自己評価力	⑩ 自己変容力	
				② 情報収集力	③ 情報分析力	④ 論理的思考力	⑤ プレゼンテーション力	⑥ 創造的解決力					
1年	文理探究科	サイエンス基礎	◎	◎		◎	◎	○			◎		
		OMURA STEAM LABO	◎		◎	◎	◎	◎	○	◎	◎		
		ネクストジェネレーション・ミーティング		◎	◎	◎	◎		○	◎		◎	
		留学生交流研修					◎		◎	○		◎	
	探究 PF I	工業技術センター・環境保健研究センター研修	◎		○						◎		
		水環境講座	◎		○						◎		
		海洋エネルギー研究センター研修	◎		○						◎		
		全学科	大高探究ビルディング	◎			○			◎			
		かはくVR探究	○	◎			◎		○				
		ミニ課題探究	◎	◎	○	○	◎	◎	◎				
	課題発見セミナー I	◎							◎				
	情報分析力育成講座		○	◎	◎								
	批判的思考力養成講座									◎			
2年	全学科	大学セミナー	◎	◎						◎			
	文理探究科	探究 PF II A	科学探究講座	◎	○	○	○						
			地学研修講座	◎	○		○						
			留学生交流研修					◎		◎	○		◎
			科学プレゼンテーション研修				◎	◎					
			科学英語プレゼンテーション研修					◎					
			科学技術研修講座	◎	◎	○				○			
			批判的思考力養成講座									◎	
			海外研修					◎			○		◎
		課題探究	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	
普通科	探究 PF II B	課題発見セミナー II	◎	○						◎			
		探究力向上講座	◎	◎	○								
		課題探究	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	
家政科	探究 PF II C	外部連携セミナー	◎	◎	◎								
		課題探究	○	○	○	○		○	◎	○			
3年	文理探究科	探究 PF II A	課題探究					◎	◎	○	◎	◎	
			発表会・要旨集作成				◎	◎	◎			◎	
	普通科	探究 PF II B	課題探究					◎	◎	○	◎	◎	
			発表会・要旨集作成				◎	◎	◎			◎	
	家政科	探究 PF II C	課題探究			◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
			発表会				◎	◎	◎			◎	

◎：その事業が能力の向上に強く寄与すると思われるもの ○：その事業が能力の向上に寄与すると思われるもの

◎は、ルーブリック評価の回答において、レベル3以上が全体の80%以上と定義

○は、ルーブリック評価の回答において、レベル3以上が全体の60%以上と定義

※各レベルの評価規準については、ルーブリックに掲載【p. 21 参照】

【第Ⅰ期から第Ⅱ期にかけてのルーブリックの評価指標の改編内容】

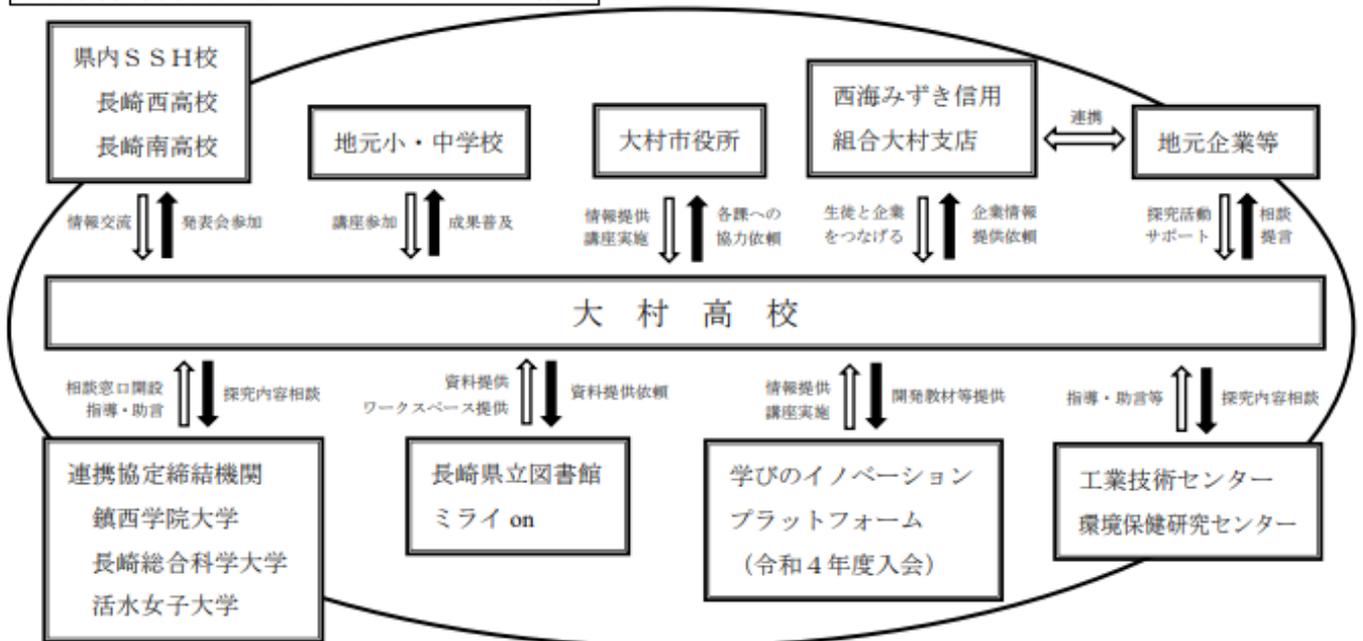
第Ⅱ期では、第Ⅰ期のルーブリックの評価指標を改編し、カリキュラム・マネジメントも含め、研究開発の実施・検証評価の更なる充実につなげることを目指している。

	第Ⅰ期	第Ⅱ期
科学的 探究力	課題発見力	課題発見力（テーマ設定力と集約）
	情報収集力	情報収集力
	テーマ設定力	
		情報分析力（新規）
	論理的思考力	論理的思考力
	プレゼンテーション力	プレゼンテーション力
		創造的解決力（新規）
協働	創発力	創発力
実践力	社会参画力	社会参画力
メタ 認知力	自己評価力	自己評価力
	自己変容力	自己変容力

【大村高校探究活動コンソーシアム】

第Ⅰ期SSH指定期間の4～5年目頃から、探究活動で外部機関（大学・企業等）とつながろうとする生徒が増えてきた。そこで、第Ⅱ期では、大村市役所や長崎県のマイプロジェクト事務局である西海みずき信用組合の大村支店を始めとする各機関とのコンソーシアム構築による地域に根差した探究活動の推進、連携協定締結期間である鎮西学院大学、長崎総合科学大学、活水女子大学における探究活動に関する相談窓口の設置による探究活動の充実を目指している。

大村高校探究活動コンソーシアムの構成



# SSH第Ⅱ期 単元配列表 1年生普通科 ~ 課題探究 × 探究的な各教科の授業 = 主体的な学びへ ~

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考		
科目	ガイダンス 大高探究 ビルディング	探究活動ガイダンス 研究倫理	情報分析講座① 情報分析講座② かはくVR (予備)	3年発表参観 テーマ設定説明 連携講座 (予備)	3年発表参観 テーマ設定 班編制 班編制 テーマ設定	3年発表参観 テーマ設定 班編制 班編制 テーマ設定	3年発表参観 テーマ設定 班編制 班編制 テーマ設定	3年発表参観 テーマ設定 班編制 班編制 テーマ設定	3年発表参観 テーマ設定 班編制 班編制 テーマ設定	3年発表参観 テーマ設定 班編制 班編制 テーマ設定	3年発表参観 テーマ設定 班編制 班編制 テーマ設定	3年発表参観 テーマ設定 班編制 班編制 テーマ設定	3年発表参観 テーマ設定 班編制 班編制 テーマ設定	文理解探究科の 数理物理、サイエンス基礎 で、記入例を書いています。参考にどうぞ。  図形で挿入でもよいですし、適宜、直接記入していただいても構いません。セルの結合も自由に構いません。	
探究	① 探究の基礎知識・分析技術の習得			② テーマ設定			③ 調査・分析・考察			④ ポスター作成、最終発表					
現代の国語	● グループでの協働 ● 情報分析に関する基礎技能・倫理 ● 探究の流れを経験、ポスター作成を経験			● テーマ設定に関する基礎技能 ● 事前調査・インタビュー など ● グループでの協働			● グループ外からの助言の活用 ● 情報収集、調査・研究の技能習得			● ポスター作成技術の習得 ● 自身の調査・研究への理解深化					
言語文化	伝える・伝え合う 「考える技術」を読んで、高校生活で考えを深めたいことについて、自分の意見を書く。 400字作文【B,C,D,I】	文章の要点をつかむ 「水の東西」を読んで、対比構造や文章構成を的確に捉える。【B,C,D】	文章の論理をとらえる 「動的平衡としての生物多様性」を読んで、文章	資料を駆使する 「『安くておいしい国』の限界」を読んで、資料と文章の関係をふまえて文章の内容を理解する。【A,B,C,D,G】	文章を比較して読む 「『美しさ』の発見」を読んで、複数の文章を比較しながら内容を理解する。	根拠を吟味して読む 「賢訳を取り戻す」「言葉についての新しい認識」を読んで、引用を吟味し、筆者の主張を読み取り、自己の考えを深める。	主体的に読む 「白」を読んで、目的や問いをもって読むことを意識する。また、文章を読み取り、	漢文入門、故事成語 訓読の基本的なまじり方を理解する。故事成語を読み、現代の意味・用法を理解する。	漢文 史話、漢詩 古典文法と漢文句法の関係性や漢文特有の文章構成に慣れつつ、内容を読み取る。 古文 物語、日記 文章構成や、筆者の主張、登場人物の心情などを、文法事項を整理しながら読み取る。	古文入門 古文の言葉やまじりを学び、音読することで文法に慣れる。	古文 随筆、物語 文章構成や、筆者の主張、登場人物の心情などを、文法事項を整理しながら読み取る。	古文 随筆、物語 文章構成や、筆者の主張、登場人物の心情などを、文法事項を整理しながら読み取る。	古文 随筆、物語 文章構成や、筆者の主張、登場人物の心情などを、文法事項を整理しながら読み取る。		
英語CI	新しい世界を発見するための自分のハッチは何か考える【I,J】	最も機能的だと思うピクトグラムを選ぶ【C,F】	海洋のプラスチック汚染を減らすための最良の方法を考える【D,H】	貧困の子どもたちを助けるために何が出来るかを考える【A,H】	火星に住みたいか、またその理由を考える【C,F】	朝晩と夜晩はどちらが効果的かについて考える【E,J】									
論理・表現I	自分自身のことについてどのように伝えたらよいか考える【A,B,C】	自分の経験や思い出をどのように伝えたらよいか考える【A,B,C,D,I】		自分の失敗を振り返り、今後どうしていけばよいかを考える【A,B,C,J】	環境問題とその対策についてどうすべきかを考える【A,B,C,D,J】	世界の様々なデータを読み取り情報を整理する【A,B,C,D】	未来の自分を想像し、今の自分に何を伝えられるか考える【A,C,D,J】								
数学		関数の応用における最大値・最小値【B,C,D】		三角比における図形の分析【B,C,D】	確率における期待値の計算【B,E,H】							データの分析における代表値の計算【B,E,H】			
保健体育	体づくり運動【B,I】	球技選択I・体育論【B,D】	ダンス(大高体操)・体育理論【B】	球技選択II・体育理論【B,D】	持久走【I,C】	球技選択III・体育理論【B,D】	健康の成り立ち【A,B,H】	生活習慣病と健康【A・B・J・F・I】	精神疾患と健康【G,H】	現代の感染症【B,H,J】	健康に関する意思決定行動選択【A,C,E,I,J】	安全な社会生活【B,D,G,H】			
情報I	情報社会とはメディアとデザイン【B,C,H】	情報社会における法規権利情報技術が築く新しい社会情報デザイン メディアの発達【A,B,C,H】	情報システムの構成情報のデジタル化	情報通信ネットワーク情報セキュリティ【A,B,D,H,J】	問題解決 データの活用モデル化 シミュレーション【A,B,C,D,F,H】	プログラミングの方法アルゴリズムとその表記【A,C,D,F】プログラム言語についてPythonプログラム言語について	プログラミングの実践プログラミングの方法【A,C,D,F】関数を利用したプログラム								
家庭基礎	快適な衣生活とは【G,H】	家族・家庭における協力・協働について考える【A,D,H】		子どもにとって安全な環境とは【B,J】	健康的な食生活とは【A,I,J】	ホームプロジェクト(問題解決的な学習)【A,B,E】	快適な住まいとは【F,C】								
音楽	歌唱・良い発声方法を身につけるために考えよう ・言葉の持つ意味を考えて歌おう	器楽 ・演奏の基本技法を身につけるために考えながら練習しよう ・より良い音を出すためと、自分らしい表現をするために考えよう		歌唱・イタリア歌曲の発声方法を探求しよう ・楽曲の背景を考えて演奏しよう	鑑賞・今ある音楽はどんな変遷をたどったのか	創作・理論を身につけよう ・オリジナル楽曲を作ろう	日本音楽・日本音楽の持つ雰囲気を感じ取って演奏しよう	アンサンブル ・自分の表現をみつけよう							
美術	美術における「描く」とは何かを考える【A,J】	「絵画」と「デザイン」の違いを考える【B,C】	鉛筆デッサンにおける立体感と質感の出し方について探求する【E,F,J】	トリックアートにおける写真を撮る角度や描く角度、陰のつけ方について探求する【B,C,H】	伝えたいことが分かりやすく伝わるポスターの描き方について探求する【B,D,E】	抽象彫刻を探究する【B,C,E】	生活を彩る文様を探究する								
歴史総合	近代化と私たち ・結びつく世界と日本の開国 ・国民国家と明治維新【A,B,C,D,G,H,I】			・帝国主義の時代 国際秩序の変化や大衆化と私たち ・第一次世界大戦と大衆化【A,B,C,D,E,G,H,I】		・ソ連の誕生とアメリカの繁栄 経済危機と第二次世界大戦 グローバル化と私たち【A,B,C,D,E,G,H,I】									
地理総合	地理情報システム(GIS)の学習 ・地図の役割の理解 ・地理院地図やRESASの利用法【A,B,C,D,E,F,G,H,I】			地形・気候【A,B,C,D,F,G,H,I】		防災学習 ・GISを利用した災害情報の把握【A,B,C,D,F,G,H,I】									
地学基礎	地球の概観 ①GPS端末で地球の大きさの測定 ②世界地図の切り取り再配置による大陸移動の理解 ③気象庁の地震データの活用による地震断層の解析【B,C,D】	地球の歴史 ①実物化石の観察【B,C,D】		地球の歴史 ②化石の写真や映像による確認【B,C,D】	大気と海洋 ①雲の発生 ②天気図解析【B,C,D】	太陽系と宇宙 ①映像を確認 ②天文学史【B,C,D】	太陽系と宇宙【B,C,D】 ③流星群 ④ジェムスウェブ宇宙望遠鏡	地球の環境 ①自然の恩恵 ②自然の災害【A,E,F,G,H,I,J】							
化学基礎		実験 結晶の分類 情報収集、情報分析【B,C,G】			実験 化学反応式の量的関係データの処理【B,C,G】		実験 中和滴定データの処理【B,C,G】								
LHR 学校行事	体育祭での協働		2年次の地歴・理科の		五教祭での協働										

【授業内容と関連性が考えられるルーブリックの評価指標】…A：課題発見力 B：情報収集力 C：情報分析力 D：論理的思考力 E：プレゼンテーション力 F：創造的解決力 G：創造力 H：社会参画力 I：自己評価力 J：自己変容力

# SSH第Ⅱ期 単元配列表 2年生普通科 ~ 課題探究 × 探究的な各教科の授業 = 主体的な学びへ ~

科目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
探究	ガイダンス 来客講座?	課題発見セミナー 班編成	テーマ設定 探究力講座	テーマ設定 探究力講座	テーマ設定 探究力講座	3年発表準備 予備実験・調査	3年発表準備 予備実験・調査	3年発表準備 予備実験・調査	3年発表準備 予備実験・調査	3年発表準備 予備実験・調査	3年発表準備 予備実験・調査	3年発表準備 予備実験・調査	物理基礎・物理で、 記入例を書いています。参考にどうぞ。  図形で挿入でもよいですし、 適宜、直接記入していただいても構いません。セル の結合も自由に構いません。
	① テーマ設定			② 調査・分析・考察				③ 研究の深化、ポスター作成、中間発表					
	● テーマ設定に関する技能 ● 事前調査、予備実験 ● グループでの協働			● 専門家からの助言の活用 ● 情報収集、調査・研究の技能習得				● ポスター作成 ● 自身の調査・研究への理解深化					
論理国語	若者に友達ブ レッシュャー	自分を捉え直す	カタカナ語は享 受すべきか	それぞれの しっくりくる 言葉	世界のあり 方	女性/男性 だから〇〇	ホンモノの おカネの作 り方	「すべり台社会」 と「溜め、	スポーツと ナショナリ ズム	誰かの靴を履い てみる			
古典探究	十訓抄	呂氏春秋	徒然草	蒙求	伊勢物語	後漢書	枕草子	史記	源氏物語	更級日記	大鏡	陶淵明集	
英語CⅡ	国連ユース気候サミットに ついて理解し、地域社会で できる環境保護について	動物の睡眠について理 解し、生息状況との関係 について考える [C,D]	動物の睡眠について理 解し、生息状況との関係 について考える [C,D]	SNSの利点と欠 点について話し合 い、その意見を比 較・対比する [A,B,C,D,E,F, G,H,I,J]	トップアスリートの優勝 スピーチについて学び、 効果的なスピーチにつ いて考える [E,J]	世界で起こっている 災害や、防災への取 り組みについて学ぶ [A,B]	元号の歴史と、「令 和」の意味について学 び、考察を深める [C]	フードロス・フードウェ ィストの問題を理解し、各 国の対策について学ぶ [A,F]	探検家グランドス ラムを達成した探検家 の経歴とメッセージ から学ぶ [G,J]	電池の発展につ いて学び、電池の今 後の可能性につ いて考える [B,D]	オーバートーリズム とその解決策につ いて学ぶ [F,H]		
論理・表現Ⅱ	将来の夢や実現 するための努力につ いて考える [A,B,C,F,H,J]	留学生のために催し たい学校行事につ いて考える [A,B,C,D,E,G]	スポーツの歴史 やアスリートの活 躍について考える [A,B,C,D,H]		深刻な環境問題 について理由や因果 関係を考える [A,B,C,D,F,H,I, J]	海外旅行者の傾向 について理由や根 拠について考える [A,B,C,D,F,H]	外国語と公用語に ついて考える [A,B,C,D,F,H]	日本の労働環境、 労働条件について 考える [A,B,C,D,H,J]	自分の願望や将来 について様々な ケースを仮定する [A,B,C,D,F,H,I, J]	AIとともに生きるの ために、睡眠 やストレスにつ いて考える [A,B,C,D,F,H, I,J]	健康的な生活を 送るために、睡眠 やストレスにつ いて考える [A,B,C,D,F,H, I,J]	製品の販売促進 や戦略につ いて考える [A,B,C,D,F, H]	
数学(文)		Ⅱ図形と方程式 線形計画法	C平面ベクトル 斜交座標		Ⅱ三角関数 加法定理の証明			B数列 漸化式		Ⅱ積分法 面積・体積			
数学(理)		Ⅱ図形と方程式 線形計画法 [C,D,H]	C平面ベクトル 斜交座標 [D,F]		Ⅱ三角関数 加法定理の証明 [D,E]			B数列 漸化式 [C,D]		Ⅱ積分法 面積・体積 [C,D,F]			
保健体育	体づくり運動 [A,C,I]	球技選択Ⅰ・体育論 [C,F]	ダンス(大高体操)・体育理論 [A,E,F]	球技選択Ⅱ・体育理論 [C,F]	持久走 [I,C]	球技選択Ⅲ・体育理論 [C,F]						[G] 共通 体育性論 [A,B,C] 保健 [I,J] 共通	
生涯を通じる健康 [B,C,J,I,D]													
日本史探究	第1部 原始・古代の日本と東アジア [B,C,E,G,I]			第2部 中世の日本と世界 [B,C,E,F,G]				第3部 近世の日本と世界 [B,C,E,F,G]					毎回の授業においてMQやSQを設定し、それ に対する自分の答えを記入プリントに論述す る。
世界史探究	世界史へ のまなざし [A,D]	第1編 諸地域の歴史的特質 ※特に宗教の発生と内容については、「なぜ」「どのように」生まれたのかを探究させる。 [A,B,C,D]				第2編 諸地域の交流と再編 [A,B,C,D]							授業テーマごとに「なぜ」の問いを与え、考え る作業をする。
地理探究		農業 統計資料の分析 [B,C,D]		工業 統計資料の分析 [B,C,D]		観光 特徴・利点・課題 [B,C,D,F,G,H]							
公共	第1章第1節 青年期と自己形成 [A,B,C,D,H,I,J]	第1章第2節 人間としての自覚 [A,B,C,D,H,I,J]		第3章第1節 民主社会の基本原則 ※なぜ、現代に残るか [A,B,C,D,H]	第3章第2節 日本社会の基本原則	第4章第1節 日本の政治機構	第4章第2節 政治参加と民主政治の課題 ※主権者として諸テーマを考える						
物理基礎・物理	有効数字 の考え方	① 等加速度運動 センサーを用いた計 測 [B,C,F,G]	② 運動の法 則 センサー利用 [B,C,F,G]	③ エネ保存 センサー利用 [B,C,F,G]	④ 共振・共鳴 地震との関連も 扱う [B,C,G,H]	⑤ 電気 家庭での電気 使用を考える [B,C,G,H]	⑥ 重心 複数の検証方法検討。 発表まで実施 [B,C,E,G]	⑦ 運動量 球技の球の反 発係数測定 [B,C]	⑧ 単振動 センサーを 用いる [B,C,D]	⑨ 万有引力 惑星運動のモ デル化 [B,C,D,F]	⑩ 屈折・干渉の確認 波・音・光に共通する諸 現象を実測する [A,B,C,H]	通年で、実験(丸数字で記載)ではレポート 作成技能向上、実験技能の向上をはか る	
化学基礎(文)	酸・塩基 中和滴定実験 ①器具の用途 ②データの記録 ③データの処理(誤差も) [B,C,D]			酸化・還元 ①酸化・還元剤の拡張 ②殺菌・CODの考え方 ③トタンとブリキ、化学電池 [B,C,D,H]						身近な「酸・塩基」、「酸化・還元」 調味料、灰汁、消毒薬、うがい薬など [H]			
化学基礎・化学	電気・電気分解の 化学反応 [D]	結晶構造のモデル 化 [B,C,D]	状態図の応用 フリーズドライの作り方 [H]		気体の状態方程式 の応用 [B,C,D]	人工透析と は? [D,H]	身近な発熱、吸熱 反応調査 [B,C]	身近な触媒を 考える [A,H]					
生物基礎(文)	生物の共通性と多様性 ①顕微鏡の扱い方 ②マイクロメーターの使い方 [A,B,C,D,I,J]		代謝 酵素の性質とはたらき [C,D,G,H,I,J]		体細胞分裂の所要時間の推定 体細胞分裂の観察 [C,D,F,G,I,J]		DNAの抽出 抽出のための操作を理解 [C,D,G,I,J]						
生物基礎・生物	生物の共通性と多様性 ①顕微鏡の扱い方 ②マイクロメーターの使い方 [A,B,C,D,I,J]		代謝 酵素の性質とはたらき [C,D,G,H,I,J]		体細胞分裂の所要時間の推定 体細胞分裂の観察 [C,D,F,G,I,J]		DNAの抽出 抽出のための操作を理解 [C,D,G,I,J]						
LHR 学校行事	体育祭での協働	[B,C,D,E,F, G,H,I,J]	SSH 発表会		[A,B,C,D,E, F,G,H,I,J]	五教祭での協働							

【授業内容と関連性が考えられるルーブリックの評価指標】…A:課題発見力 B:情報収集力 C:情報分析力 D:論理的思考力 E:プレゼンテーション力 F:創造的解決力 G:創造力 H:社会参画力 I:自己評価力 J:自己変容力

令和7年度 単元配列表 3年生普通科 ~ 課題探究 × 探究的な各教科の授業 = 主体的な学びへ ~

科目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
探究	探究活動	探究活動	探究活動	探究活動	探究活動	探究活動	探究活動	探究活動	探究活動	探究活動	探究活動	探究活動	数学で、記入例を書いています。参考にどうぞ。 図形で挿入でもよいですし、適宜、直接記入していただいても構いません。セルの結合も自由に構いません。
	①調査・分析・考察・ ● 専門家からの助言の活用 ● 情報収集、調査・研究の技能習得 ● 自身の調査・研究への理解深化		②ポスター作成、最終発表 ● ポスター作成 ● 最終発表準備		③ミニ要旨作成 ● ミニ要旨作成 ● 振り返り		④各種発表会への参加(希望者) ※10月以降の探究活動の時間については、最終発表会の準備・参加の時間に振り替えを行う。						
論理国語	「文化が通う」とは何を意味するのか? [A,B,C,D]	「学問の政治性」 [A,B,C,D]	「環境と心の問題」 [A,B,C,D]			「顔の所有」 [A,B,C,D]	「無常とということ」 [A,B,C,D]						
古典探究	「門出(元禄日記)」 「源氏の五十余巻(元禄日記)」 [A,B,C,D]	「死せる諸君生ける仲達を走らす (十八史略)」 [A,B,C,D]	「若衆との出会い (源氏物語)」 [A,B,C,D]			「廉頗・藺相如 (史記)」 [A,B,C,D]	「町の小路の女 (橋本日記)」 [A,B,C,D]						
英語CⅢ	リアモーターカーの開発と今後の展望について読み、内容をまとめる。級友と意見を交換する。 [B, D, E]	発展途上国における井戸の建設の話を読み、内容をまとめる。級友と意見を交換する。 [B, D, E]	アスリートと人権問題に関する話を読み、内容をまとめる。級友と意見を交換する。 [B, D, E]	赤ちゃんの言語習得に関する話を読み、内容をまとめる。級友と意見を交換する。 [B, D, E]	デジタル化社会に関する話を読み、内容をまとめる。級友と意見を交換する。 [B, D, E]	人類と感染症との戦いの歴史を読み、内容をまとめる。級友と意見を交換する。 [B, D, E]	読解演習 [B, C, D]						
論理・表現Ⅲ	家電について自分の意見を英語で話し、書く。 [B, D, E]	観光地について自分の意見を英語で話し、書く。 [B, D, E]	動物について自分の意見を英語で話し、書く。 [B, D, E]	環境問題について自分の意見を英語で話し、書く。 [B, D, E]	移住について自分の意見を英語で話し、書く。 [B, D, E]	和文英訳の演習 [C, D, G]							
数学(文)	B数列 漸化式 [A, C, D] B統計的な推測 標準正規分布 [B, C, D]		総合演習 [A, B, C, D, F]										
数学(理)	Ⅲ極限 極限・関数の連続性 [A, B, C, D, F]		Ⅲ微分法 導関数・速度と加速度 [A, B, C, D, F]		Ⅲ積分法 面積・体積 [A, B, C, D, F]		総合演習 [A, B, C, D, F]						
保健体育	体づくり運動 [B, G, I]	ダンス・体育理論 [B, G, E]	球技選択Ⅰ・体育論 [A, B, D, G, I, H]		球技選択Ⅱ・体育理論 [A, B, D, G, I, H]				球技選択Ⅲ・体育理論 [A, B, D, G, I, H]				
日本史探究	第3部 近世の日本と世界 第3章 近世の国家・社会の変容 [B, C, E, F, G, I]		第4部 近現代の地域・日本と世界 第1章 開国から倒幕へ 第2章 明治維新 第3章 近代国家の形成 第4章 両大戦間の日本 第5章 十五年戦争と日本 第6章 戦後日本の形成 第7章 グローバル化のなかの現代日本 [B, C, E, F, G, I]				共通テスト・個別試験に向けた問題演習 [A, B, C, D, F]						
世界史探究	諸地域の交流と再編 ①中華世界の崩壊とモンゴル帝国 ②大交易時代と世界の一体化 ③主権国家体制の形成と交易の拡大 [A, B, C, D, F, H, I, J]		一体化する世界 ①国民国家と近代化②世界市場の形成 ③世界分割の進行 ④第一次世界大戦と諸地域の変容 [A, B, C, D, F, H, I, J]		一体化する世界 ①第二次世界大戦と戦後のアジア ②冷戦の世界化・変容・終結 [A, B, C, D, F, H, I, J]				共通テスト・個別試験に向けた問題演習 [A, B, C, D, F]				
地理探究	地球の概観 ①GPS端末で地球の大きさの測定 ②世界地図の切り取り再配置による大陸移動の理解 ③気象庁の地震データの活用による地震断層の解析 [B, C, D]		考察 ①現代世界の地域区分 ②現代世界の諸地域 [A, B, C, D, F, H]		現代世界の地誌的考察 ①現代世界の地域区分 ②現代世界の諸地域 [A, B, C, D, F, H]				共通テスト・個別試験に向けた問題演習 [A, B, C, D, F]				
政治・経済(文)	現代の政治 [A, F, H, I, J] 1 民主政治の基本原則と展開 2 日本国憲法と基本的人権 3 日本の政治機構 4 政治参加と民主政治の課題		現代の経済 [A, F, H, I, J] 1 経済活動の意義と経済体制 2 現代経済のしくみ 3 日本経済と福祉の向上				現代の国際社会 [A, F, H, I, J] 1 国際政治の動向 2 国際経済の動向 3 国際社会の課題と日本の役割				演習を通じた現代の政治・経済の課題 総整理 [A, B, C, D, F]		
物理	光の回折と干渉 「現象観察」「明線間隔の式導出」 [A, D]	熱力学 「分子運動論」「熱サイクル」 [B, D]	電場・電位 「はく検電器」「等電位線」 [B, F]	コンデンサー 「充電電時の電荷の移動」 [D, E]	電流、電気回路 「ドルーデモデル」「電池内阻抵抗」 [B, C]	磁場・電磁誘導 「電流と磁場」「レンツ法則」「交流」 [C, D]	原子 「光電効果」「原子モデル」「半減期」 [C, D]	総合演習 [D, F]		総合演習 [C, D, F]			
化学基礎(文)	結合と結晶の分類 情報収集、情報分析 [B, C, G]		反応式の量的関係 データの処理 [B, C, G]				総合演習 [A, B, C, D, F]						
化学基礎・化学	無機物質 [B, C]		有機化合物 [B, C, D]		有機化合物 [B, C, D]		高分子化合物 [B, C]		総合演習 [A, B, C, D, F]				
生物基礎(文)	生物の多様性と生態系を科学的に思考する ①植生と遷移 ②生態系と生物の多様性 [A, B, C, D, F, I, J]		生物の特徴・遺伝子とその働きを科学的に思考する ①生物の多様性と共通性 ②生物とエネルギー ③遺伝情報とDNA・タンパク質 [A, B, C, D, F, I, J]				ヒトの体の調節を科学的に思考する ①体内環境と情報伝達 ②免疫のはたらき [A, B, C, D, F, I, J]				総合演習 [A, B, C, D, F]		
生物	遺伝情報の発現と発生を科学的に思考する ①遺伝子の発現 ②動物の発生 ③バイオテクノロジー [A, B, C, D, F, I, J]		遺伝情報の発現と発生を科学的に思考する ①遺伝子の発現 ②動物の発生 ③バイオテクノロジー [A, B, C, D, F, I, J]				生態と環境を科学的に思考する ①個体群と生物群集 ②生態系の物質循環 ③生態系と人間生活 [A, B, C, D, F, I, J]				総合演習 [A, B, C, D, F]		
LHR 学校行事	体育祭での協働		SSH 発表会				五教祭での協働						

【授業内容と関連性が考えられるルーブリックの評価指標】…A:課題発見力 B:情報収集力 C:情報分析力 D:論理的思考力 E:プレゼンテーション力 F:創造的解決力 G:開発力 H:社会参画力 I:自己評価力 J:自己変容力

## 運営指導委員会記録

### (1) 第1回運営指導委員会

・日時 令和7年7月18日(金) 15:30～17:20

・場所 大村高校 会議室A

・出席者 長崎県工業技術センター所長 野中一洋 様 長崎総合科学大学副学長 大山 健 様  
鎮西学院大学アドミッションセンター長 原田尚之 様 山口大学知的財産センター准教授 陳内秀樹 様  
活水女子大学看護学部教授 岩瀬貴子 様  
長崎県教育庁高校教育課課長補佐 三好啓介 S S Hコーディネーター 堤 敏博  
大村高校 校長 満行洋介、教頭 森 昭三、教頭 黒川智通  
探究S S H企画部主任 川久保晃一、探究S S H企画部副主任 緒方則彦

・欠席者 長崎県環境保健研究センター所長 斉宮広知 様 長崎大学総合生産科学域准教授 利部 慎 様  
長崎県教育庁高校教育課参事 馬場 剛

・内容

#### 1 開会行事

#### 2 S S H事業説明

・主任より説明(中間評価に向けて)

##### 【協議及びご助言】

～自己評価票における成果の課題の分析に関する評価～

委員A: 大事なところは理系の人材を育成したという最終的な進学等のアウトプットであると思う。進学先の事例が記載されているが、具体的な数字を記載した方が良い。

教頭: コンクールにおける参加人数とか希望する人数とか。関連する資料から説明すると良い。

～自己評価票における教育内容、指導体制等に関する評価～

委員B: 探究のテーマ設定が理科系だけでなく福祉や色んな視点から取り組んでいるのでそういうところを記載した方が良い。探究に関して理系以外の先生方を含む全職員で取り組んでいるところも強調すべき。

委員A: 課題探究発表会における理系のテーマの数と文系のテーマの数を記載しても良いのでは。

委員B: 観点10の主体的・対話的で深い学びの視点について何か指数はないか。

委員C: 観点10は授業改善が図られているかだと思う。思考を深める間のワークシートについては回収しただけになっているので、他の先生のワークシートを参考に授業改善に繋がったかというアンケートを取ると良い。具体例の記入もあれば尚良い。

委員A: 卒業生の活用について協力してくれている人数を具体的に記載すべき。

委員A: 卒業生のグループラインを作成しこちらから一方的なニ

ュース等を送る。そこにアンケートの入力フォームを送信するなど。こういう目的のためだけに使用しますとすると個人情報としてはそこまで気にしなくて良いのでは。

～外部連携・国際性・部活動等の取組みに関する評価～

委員C: 理科部の生徒の発表があると生徒達が目指したい発表になる。全体のレベルの底上げになっている。

～各委員より～中間評価及び課題探究発表会について～

委員B: アピールの仕方が重要。‘本校の開発教材を活用させてもらいたいという連絡が入った’これはどの部分に興味を示してもらったという教材の良さを記載。良いところを具体的に。

委員A: 評価があまり良くなかった他県の学校についてどのようなデータを使用していたのか追求を。

委員D: 課題探究発表会について。3年生同士がポスター発表を見られないことが残念。発表が苦手な生徒にとっては配慮が必要であるが、発表をしたという証拠にするために単独で発表を行う学校もある。県、または全国で発表している等発表の規模によって評価も随分と変わり、調査書の書き方も重要になってくる。

委員C: 発表の際3年生同士が見学すると良い質問が出る。後輩からはなかなか質問が出ない。理解度を☆の数で示すワークシートを作成しても良いのでは。

委員E: 発表会でポスター発表の人気不人気の差が気になった。人数把握のためシール等を活用して聞きにきた生徒の実数を把握できれば良い。

#### 3 閉会行事

校長挨拶

## (2) 第2回運営指導委員会

・日時 令和7年12月17日(水) 14:00~16:00

・場所 大村高校 校長室

・出席者 長崎県工業技術センター所長 野中一洋 様 長崎県環境保健研究センター所長 齊宮広知 様  
長崎総合科学大学副学長 大山 健 様 鎮西学院大学アドミッションセンター長 原田尚之 様  
長崎大学総合生産科学域准教授 利部 慎 様 山口大学知的財産センター准教授 陳内秀樹 様 (オンライン)  
活水女子大学看護学部教授 岩瀬貴子 様  
長崎県教育庁高校教育課参事 馬場 剛 S S Hコーディネーター 堤 敏博  
大村高校 校長 満行洋介、教頭 森 昭三、教頭 黒川智通  
探究 S S H企画部副主任 緒方則彦

・欠席者 長崎県教育庁高校教育課課長補佐 三好啓介、探究 S S H企画部主任 川久保晃一

・内容

### 1 開会行事

### 2 S S H事業説明

・副主任より説明(下半期の S S H事業説明)

#### 【協議及びご助言】

委員 A: 最優秀賞までの道のりや工夫、苦労した点、また生徒の生の声を聞いて一つのストーリーを作りアピールすると良い。

委員 B: 生徒が良い意味で突っ走っていくことは良いこと。大学の先生へもどんどん問い合わせさせていただいたら良い。

委員 C: 物理の研究のショート動画を作成し YouTube で見てもらうと現象が理解しやすく、中学生の理科的な気持ちにスイッチ入れつつ入学生確保に繋がる。

委員 A: 高校生が大学の先生と連携し、大学を身近に感じて進路を具体的に考えるきっかけにもなる。

委員 D: 予算をかけなくてもできることに視点を置いてみる。例えば生徒への指導法などを大村高校の強みとして他校へアピールしていくと他校も助かる。資金がいつなくなるか不明な状況だと中学生にアピールできない。

・副主任より説明(中間評価での指摘事項について)

#### 【協議及びご助言】

委員 C: リケジョについて、家政科の調理や被服において理科的な理解を深めていくことで問題無い。

委員 D: 思考を深める間について、教員が変わる、生徒が変わる、これこそが今求められていることだと思う。 S S Hの活動に取り組んだから思考力が高まっているというバロメーターがあれば一番良い。その結果生徒がこのような発言をした、とか生徒自ら提案をするようになったとか、変容が見られることが一番良い。

委員 A: Q12 テーマの工夫について、テーマの工夫の視点よりも生

徒たちの疑問に思うことや興味を抱くというその思いを引っ張りだしている。生徒自らの気づきを持たせるような工夫に力を注いでいるというような回答をすると良い。分野が広く 100%の指導はできていないが、これまで培ってきた中で大事な部分があった。その結果賞もいただいている。というような筋の通った言い方をすると評価する側は認めてくれるのではないかと。

委員 C: 探究学習と課題研究を整理すると良い。テーマ設定、調べる、発表、評価、再度考えるというのが総合的な探究。そして課題研究では仮説と計画が重要となる。1、2年時はとにかく色々やってみるといった総合的な探究と、3年になるとより理科的な形に近づけて仮説計画を入れるよう明示すると取組やすいのではないかと。

・副主任より説明(発展 I 期(旧第 III 期)の申請に向けた方向性および研究開発内容について)

#### 【協議及びご助言】

委員 E: 海外研修における英語発表については、科学英語プレゼンテーション研修の成果がどのくらいあったか。

副主任: 年末に科学英語プレゼンテーション研修のアンケートを準備している。積極的に英語で質疑応答していた。

委員 B: 今後生徒自身が外部資金を得るシステムとは。

委員 D: 同窓会が協力してくれるかもしれない。

委員 B: その場合、生徒が研究資金獲得のためのプレゼンの経験にもなる。

委員 D: 過去の経験から高校ではクラウドファンディングはできなかった。公立高校では特定の企業を宣伝するのは NG。

### 3 閉会行事

校長挨拶

# 課題探究テーマ一覧(令和7年度)

## 3年生 探究PFIIA・IIB・IIC テーマ一覧

文理探究科	文理探究科	普通科	普通科	家政科
糸電話における糸の材質と聞きやすさの関係 ヤルト容器を逆さまにしてもこぼれない原因 レインボースプリングの落下運動について 円盤のスピンドル回転運動の解析 イオンクラフトの作成と動力源としての活用 最強の紙飛行機 冬に快適!水筒を振って飲み物を温めよう! 水の温度低下を抑え隊 紙コップの底から出る水滴の原理 焼き物の性能について リベコヒ冷却器の代用品を製作しよう 乾燥剤を作ろう 「肥料によるイネ・ヒエの分けつ数観察」と「新米農家の心の変化」 若者でも簡単な野菜の栽培方法 菌根菌と塩生植物 大村湾の水質調査 脱プラスチックの謎?「みつろう」ラップを探る 多良山系郡川産カジカの生活史と種群について 蜂蜜と水あめを用いた保存方法 廃棄物を活用した消臭剤の開発 氷砂糖を用いて切り花を長持ちさせる方法 外海の潜伏キリシタンと「ゆうこう」との関係性について 潜伏キリシタンと謎多き果実「ゆうこう」の関連性 日本全国のチェーンスーパーでの豚肉の取り扱いとその部位について なぜ私は息巻けるのか 炭酸水で汚れる落とそう	オノマトペから世界へ プロ野球の時短と観客動員数の推移 利き手は環境に影響されるのか 高校野球におけるバントの有効性 植物の種子散布戦略～雨を利用してタネを蒔く!～ <b>普通科</b> 災害時の水の確保 卵の殻を肥料にして植物の相観を調べよう クスノキとフシダニは共生している?! カマキリの目と光走性 葉っぱから制汗シートをつくろう コンタクトが及ぼす眼球への影響 大村湾の水質改善 大村市内からは始める福祉マップづくり 境界のない遊び場へ～インクルーシブ遊具が描く未来～ 急速蒸留vs徐々蒸留～新・最高決定戦～ 大村湾の魅力について 人間の跳躍力upの理に迫る 長崎の特産品を使って商品開発 行動経済学を活かした企業の戦略 シン・雨二ノ負ケズ ここが大村、ここが好き 溶けにくいアイス 長崎県産カワナノ股形態による種内変異について なぜ私らは息巻けるのか	「驚きのジャイロ効果:運動を変える力」 大高生の聞く音楽の傾向について 俺たちのSDGs・改 蛋気楼について 速度超過の多い年齢層について 言い訳のプロになろう! 身の回りの液体を用いた空の色の再現方法について 勉強の効率を向上させる方法 心地よさを感じる自然ASMRの波長の共通点 音楽で地産地消を盛り上げることはできるか 風船で家を浮かせることはできるのかVer.2.0 水のろ過と化学物質について 瞬発力を向上させるトレーニング メジャースポーツとマイナースポーツについて スポーツにおけるアップの重要性 世界に影響をあたえた日本のアニメ・マンガの共通点 源氏物語におけるヒロイン像 海外文学と古典文学との比較～日本版シンデレラを中心に～ 子どもに日本の昔話をもっと好んでもらうにはどうすればいいか? 幼児に絵本の興味をもってもらうにはどうすればいいか? 日焼け止めの効果を高める方法 フードウェイトを減らそう! あなたのメンタルは夢に出来る?～夢と精神の関わり～ 一番手の逆を鍛えよう 1番シブしにくいサブとは?	大村公園とその周辺のヤドリギ類について 環境にやさしい化粧品ってNANI? 大村市の人口を増加させるためにはBeautiful skinになろう! アルミホイル製ナイフでどこまで切れる? 猫の健康に良いキャットフードを作ってみよう 大高生のジェンダー意識と現状 自然からのSOS?花しょうぶと紅葉が語る温暖化ストーリー 衣服の廃棄量を減らすためにできることを考えよう 味の美味しさと国の位置関係 野菜でロケットをとばす 名探偵コナンのトリックを実際に再現してみよう 大村市の魅力再発見!～食～ 俺らが38になるころ 私たちの夢構想 恋愛が行動心理に及ぼす影響 野菜の皮からインクをつくってみよう <b>家政科</b> かたてを使って手話を覚えよう 花の良さを知ってもらい花を生活に取り入れよう 脳トレを習慣化で認知症予防をサポート 大村の特産品「黒田五寸人参」を使った商品開発 高校生にも和服に興味を持ってもらうには 野菜の長期保存にチャレンジ この食費の人手不足の改善を目指して	栄養士の視点から開発する保育士のための食育教材 酸素ボンベを使用している祖父のためのリュック製作 <b>着物のアップサイクルに挑戦</b> 口唇ケアで健康に 大村寿司の魅力を伝えるための外国人観光客向け動画の制作 昆虫の生態について学び、生命の大切さを知ろう <b>インクルーシブおもちゃの製作</b> クラフツドの製作・販売を通して視覚者に長崎の文化の魅力を伝える 祖父の健康寿命を延ばすために運動習慣を身につけてもらう 紙芝居で学ぶ安心・安全な食事マナー 祖父のためのとろみ割を使った栄養満点柔らかい食事作り 郷土料理で長崎県の魅力を伝えたい! 認知症防止を目指す指先を使ったトレーニングと記憶力の向上について AEDの正しい使いかたと質の高い心臓蘇生の普及を目指して <b>子どもの虫歯対策をしよう</b> 介護者の調理の負担を軽減するためのレシピ開発 韓服の製作を通して日本と韓国の文化を学ぶ 廃棄される食材等を活用してお風呂時間を快適に 楽しくコミュニケーション力を高めよう 高齢者の生きがい・楽しみを見出す手助けをしたい! カシの浴衣を製作して、大高男子にも和服に興味を持ってもらう 幼少期からの片づけの習慣づけの大切さについて 大村市の魅力発見ツアーを企画する 祖母がおしゃれを楽しめる衣服の製作

## 1年生 探究PF I ミニ課題探究テーマ一覧

文理探究科	普通科・家政科
小惑星をみつけて地球防衛 水はけの良い土とは 長崎県の地域による方言の違い 殺菌作用のある植物調査 手作り石鹸 原料の油における洗浄作用の差 究極のカルメ焼きをつくろう! 気候による蚊の違いについて 大村高校内に生息する土壌生物の特徴について ジョロウグモが作る糸の性質について 土の温度によって植物の成長に影響があるのか 花粉と肌荒れとの関係について 雑草vs熱湯 脱・睡魔!!～授業中眠くなる人向け～ 自衛できる国目指して 誰もがファーストペンギンになれる 大村市をもっと活気づけよう。 鋼のメンタルを手に入れよう!! 美味しい古米の炊き方 数学 アメとムチはどちらが効果があるのか 眠くない学校生活を送ろう 第二言語を統一化させる 映画では描けない言葉の世界 体力テスト攻略完了～握力限界突破～ <b>普通科・家政科</b> 水の中での音の伝わり方 野菜を使って石けんを作ろう 炎色反応の規則性 花からの色で絵画 義経DJSHOWにおける理科室での最適な飼育環境について ラディッシュの生育に対する地温(バジル・ローズマリー)の影響について バドミントンのシャトルが受ける風の影響について 子供のために保育士が満足する社会に。 集中力は何に左右されるか 日常の衣服で紫外線は防止できるのか 化学物質とろ過のどちらが水をきれいにするか わかりやすさを向上した校内のピクトグラムを作成しよう 世界にある共通言語を見つける 花粉症を克服するためには 高校生が感じるストレスの探究結果 やる気の原理&集中力!!!! 人の心を読めるようになるには 眠くならない授業をつくる 大高 New School Uniform 作ってみた 糸電話を強化しよう 年齢・障害の有無関係なく誰とも触れ合える楽器を作る	<b>普通科・家政科</b> 勉強の質を音楽から高めよう! 空き地からNew Town 偏見のない世界 今までのヘアメイクやファッションなどから次に流行るものを予測する 血液型と性格に関係はあるのか メディアによる心身への影響について 看護師の服の色や病室の色が与える影響 献血でたくさんの人の命を救う方法を探る 神経系について なぜメディアの扱い方に違いが出るのか なぜSNSに投稿したくなるのか 高校生の意見交換アプリを作ろう 役に立つアプリを作ろう 歴史全体を通して流行する本を考察する 夏を涼しく過ごすコツ 交通事故について —— 安全な登下校のために —— 大村市の魅力を高めるには ぶどう灼熱のサバイバル オンラインワン Myピーハンドクリーム 納豆を使った水質改善 End Again ～私は世代に囚われない～ ねりけしの中身を調べ、明確にする 良いとこ取り日焼け止め vs 市販の日焼け止め 大村湾の海洋ゴミを減らすために 高齢者が健康に過ごせるための遊びを作る What we can do for cat happiness!! (猫の幸せのために私たちができること) 新しい数学のカードゲームを作る 誰もが参加しやすい海ゴミ拾い活動を目指して 人は経験で考え方が変わるのか 第3次 Baby Boom in Omura 五感で探る煎茶×スイーツのベストペアリング やる気の源! おなかの音 消せます パワーが出る栄養素!? あなたの舌、仕事してる? 年齢関係なく楽しめる社会を作る 健康のために睡眠の質を高める 大きいラディッシュを育てるのに最適な方法

## 2年生 探究PFIIA・IIB 課題探究テーマ一覧

文理探究科	普通科
アメリカは世界の中心なのか 物価高の世の中で生き残る企業戦略 接地面積と摩擦力の関係 コアマモのブルーカーボンとしてのポテンシャル 大高生の自己肯定感と勉強の関係について探る 西洋占星術と東洋占星術の相違点を探る 竹とんぼの羽の形状と飛び高さの関係 空間認知能力が高いカエルに学習能力はあるのか 動画でお金をかせごう!! サンダーウェル発電の可能性を探る Falling Falling Go Go Go !!! 夢とストレスの関連性について 微生物で発電できるのか 日本人のファッションにみる柔軟性 人間の感性と翻訳から探る日本語と英語の共通点 大高坂攻略法 大村市の伝統芸郡三踊 野菜で作る多彩の色 軍事施設とともに発展した大村の歴史 カピの生存競争について 距離感 大高水路の魚たちにFocus on 読者作戦実行!～壁紙を添えて～ 音楽の持つ感情を可視化することで、演奏にどのような影響を及ぼせるか調査する 旧円融寺庭園及び大村護国神社敷地内の史跡について 浦島太郎ミステリー 理想のトイレの仕方 日本文学で描かれた毒愛・結婚願望の愛と、現代の結婚願望との関係 <b>普通科</b> 花を咲かせよう!～土壌栽培と水耕栽培の違い～ 味嗅視と影響 酸性の液体による金属への影響 ハンジーチャム～床の素材と音の高さの関係～ タイヤの溝を制するは、ミニ四駆を制する 絵文字の有無や数による印象の変化 バイオパークの経済効果 アニメキャラの髪色が与える印象 キャッシュレスによる意思決定と記憶に与える心理的影響 最強の調味料はなんだ!? 視覚と平衡感覚との関係 発酵熱を利用してエネルギーを作る ジャンプ力を向上する方法 温泉卓球で勝つコツ 最強のキャラをつくろう ピーススタジアムの経済効果	どの水中植物が汚濁した水をきれいにできるかを調査する サイコロの出やすい目・出にくい目はあるか 諺早市をもっと盛り上げるためには 長崎空港の今後 大村市の人口増加の要因 自転車道の秘密を知りたいか? 人の印象はどこからくるだろう。～名札から解析してみた～ 君たちは今の薬の服用の仕方本当に幸せか? トイレのニオイ問題を解決しよう 接着力は糊の種類や貼り方で変わるのか? 東洋版エスプレッソ 災害時でも発電がしたいよ。 葉っぱの撥水性について DNAの抽出と比較 光と色の関係 悪夢を避ける方法 セイヤカアワダチソウのアレロパシー作用について ドミノの倒れる時間 音楽が植物に与える影響 スポーツでケガしたとき、あなたはどしてる? 食べ物を落とした時の3秒ルールについて～そのとらいついた細菌の落とし方～ おから革命～ダイエツ編～ さいごの outcomes は本当に同様に確からしいのか。 大村にコンビニを建てるなら ディズニーランドの回り方 新しい味開発大作戦 スパイクサーブの向上日記 長崎県の観光をよりよくしていくためにはどうすればいいか 大人も子どもも楽しめる大村観光マップをつくろう 水色で探る花の秘密 言葉は実在するのか 牛乳とお酢から作ったプラスチックは本当に地球を救えるのか? 入浴剤を利用したリラクゼーション効果 お前も飛脚にならないか? 植物は、言葉の影響を受けるのか。 グラマンゾン大村～芋虫で三ツ星を獲得～ 知れば知るほど面白いイスラム教 大村市の高齢社会における福祉の政策 色と食欲の関係 将来の夢と心理的発達段階の関係 流行する音楽に共通するものは何か レジェンドたちから学ぼう ハウスエンボスの入場者数を増やすためにはどうすればいいか 言葉とやる気